

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長 殿
【提出日】	平成31年3月1日提出
【計算期間】	第11特定期間 (自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日)
【ファンド名】	ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型） ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型） ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型） ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型） ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）
【発行者名】	大和証券投資信託委託株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 岩本 信之
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【事務連絡者氏名】	松葉 恭明
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
【電話番号】	03-5555-3431
【縦覧に供する場所】	該当ありません。

第一部 【ファンド情報】

第1 【ファンドの状況】

1 【ファンドの性格】

(1) 【ファンドの目的及び基本的性格】

当ファンドは、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。一般社団法人投資信託協会による商品分類・属性区分は、次のとおりです。

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

商品分類	単位型投信・追加型投信	追加型投信
	投資対象地域	国内
	投資対象資産(収益の源泉)	株式
属性区分	投資対象資産	その他資産（投資信託証券（その他資産））
	決算頻度	年12回（毎月）
	投資対象地域	日本
	投資形態	ファンド・オブ・ファンズ

（注1）商品分類の定義

- ・「追加型投信」…一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行なわれ従来の信託財産とともに運用されるファンド
- ・「国内」…目論見書または投資信託約款（以下「目論見書等」といいます。）において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるもの
- ・「株式」…目論見書等において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるもの

（注2）属性区分の定義

- ・「その他資産」…組入れている資産
- ・「年12回（毎月）」…目論見書等において、年12回（毎月）決算する旨の記載があるもの
- ・「日本」…目論見書等において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるもの

- ・「ファンド・オブ・ファンズ」...「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズ

商品分類表

単位型投信・追加型投信	投資対象地域	投資対象資産（収益の源泉）
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
追加型投信	内外	不動産投信
		その他資産（ ）
		資産複合

（注）当ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

属性区分表

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式		グローバル（ ）	
一般	年1回		
大型株			
中小型株	年2回	日本	
債券			ファミリー
一般	年4回	北米	ファンド
公債		欧州	
社債	年6回（隔月）	アジア	
その他債券		オセアニア	
クレジット属性（ ）	年12回（毎月）	中南米	
不動産投信		アフリカ	ファンド・オブ・ファンズ
その他資産（投資信託証券）（その他資産）	日々	中近東（中東）	
資産複合（ ）	その他（ ）	エマージング	
資産配分固定型			
資産配分変更型			

（注）当ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。

商品分類・属性区分の定義について、くわしくは、一般社団法人投資信託協会のホームページ（アドレス <http://www.toushin.or.jp/>）をご参照下さい。

< 信託金の限度額 >

- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、各ファンドについて2,000億円を限度として信託金を追加することができます。
- ・委託会社は、受託会社と合意のうえ、限度額を変更することができます。

< ファンドの特色 >

1. 割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせた カバードコール戦略を構築します。

- ◆投資対象銘柄は「TOPIX100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ◆ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
- ◆選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。
また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行ないます。
- ◆個別銘柄ごとにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。
コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1カ月後とします。

2. 為替取引を活用します。

- ◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「日本円・コース」を除き、日本円売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。



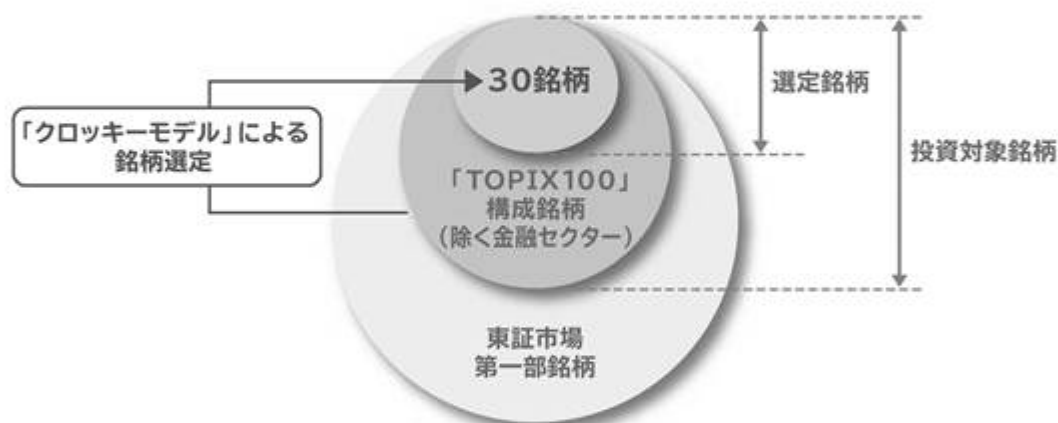
(注) 5つのコースの間でスイッチング（乗換え）を行なうことができます。

3. 毎月8日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配 方針に基づいて収益の分配を行ないます。

1 割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせた カバードコール戦略を構築します。

- ◆投資対象銘柄は「TOPIX100」構成銘柄から金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。
- ◆ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。
- ◆選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。また、銘柄の見直しは約1カ月ごとに行ないます。

銘柄選定のイメージ



※「TOPIX100」は、東証市場第一部銘柄のうち、時価総額、流動性の高い100銘柄から構成される時価総額方式の株価指数で、東京証券取引所によって算出、公表されているものです。

※金融セクターには、不動産などが含まれます。

「クロッキーモデル」とは

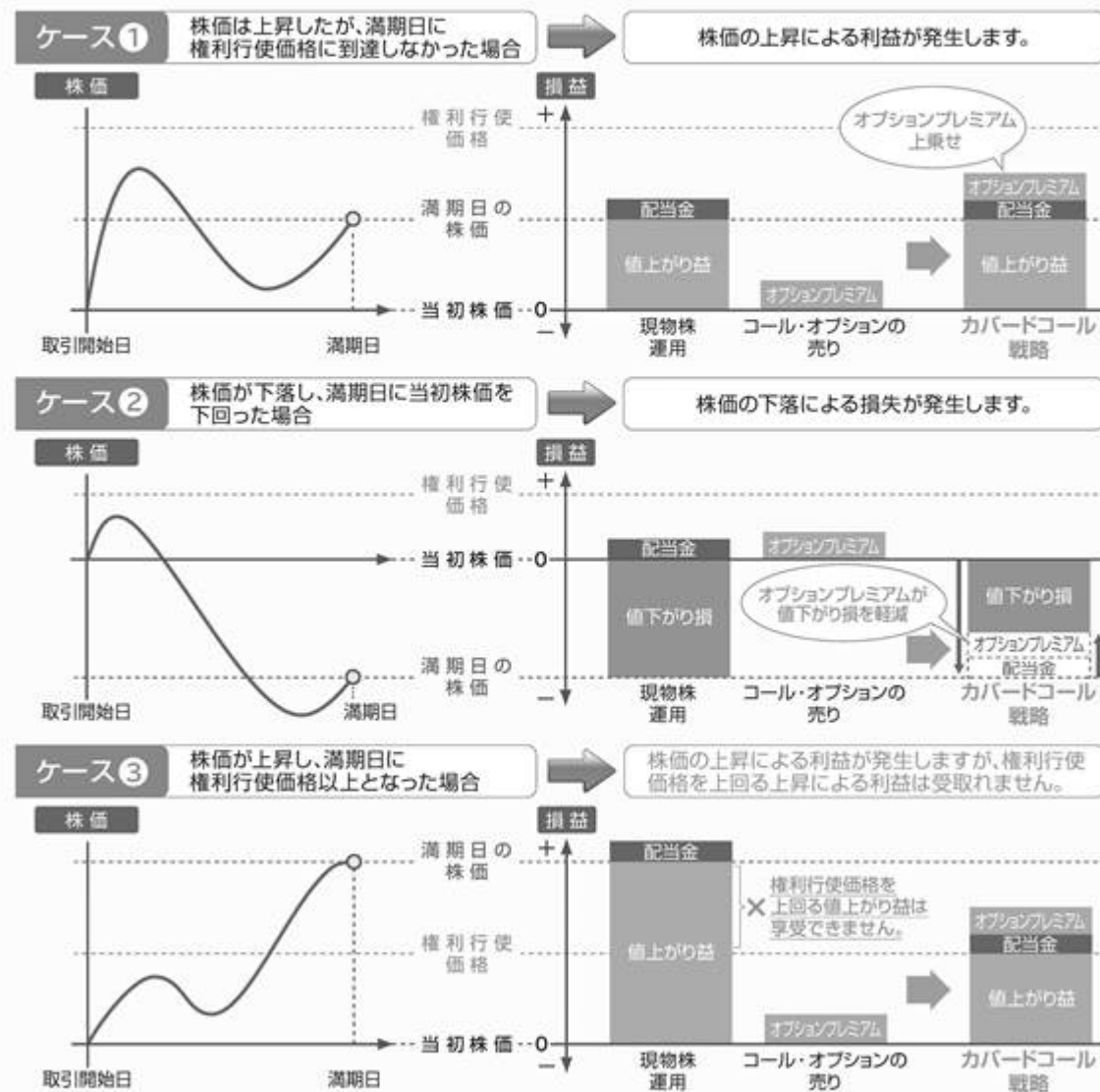
- クロッキーモデルは、ドイツ銀行グループが1995年から1996年にかけて開発した株式分析手法で、世界の機関投資家に利用されています。
- クロッキーモデルは、開発以来一貫した手法で国・業種を超えて株式投資をするために、統一した投資尺度を提供しています。
- 世界の大型株を対象として、企業が開示している会計データを徹底的に分析することで企業の本質的価値を算出しています。

※ドイツ銀行グループは、1870年にベルリンで創業されたドイツ銀行を中心とする世界最大級の総合金融グループです。世界各国で事業を展開し、幅広い金融サービスを提供しています。

◆個別銘柄ごとにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

カバードコール戦略とは

- 株式を保有しつつ、株式のコール・オプション（買う権利）を売却する戦略です。
- 株価の上昇／下落にかかわらず、オプションプレミアムを獲得することができます。
- 一方で、株価の上昇による利益は一定の水準までに限定されます。
 - ・「オプションプレミアム」とは、オプションの買い手が売り手に支払う対価をいいます。
 - ・「権利行使価格」とは、オプションの権利行使の基準となる株価をいいます。



※上記は配当金の支払いがあった場合の損益イメージを表したものです。

※当ファンドにおいて、カバードコール戦略の損益は毎営業日時価評価され、基準価額に反映されます。

※当ファンドにおけるカバードコール戦略の損益は、対象となる株式の銘柄ごとに異なります。

※上記は当ファンドの損益を示したものではありません。

※上記はイメージであり、実際の株価、配当金、オプションプレミアムとは異なります。

※上記は投資成果を示唆または保証するものではありません。

当ファンドにおけるカバードコール戦略について

- コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1カ月後とします。
- 原則として、コール・オプションが満期を迎えるごとに、銘柄を見直すとともに新たにコール・オプションを売却することで、カバードコール戦略を再構築します。
- 権利行使が満期日のみに限定されているオプションを利用します。

2 為替取引を活用します。

- ◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「日本円・コース」を除き、日本円売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。

コース名	為替取引の内容	取引対象通貨
 日本円・コース	—	—
 豪ドル・コース	日本円売り／豪ドル買い	豪ドル
 ブラジル・リアル・コース	日本円売り／ブラジル・リアル買い	ブラジル・リアル
 米ドル・コース	日本円売り／米ドル買い	米ドル
 通貨セレクト・コース	日本円売り／選定通貨買い	選定通貨

※5つのコースの間でスイッチング（乗換え）を行なうことができます。

- ◆「日本円・コース」以外の各コースでは、為替取引を行なうことにより、「為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）」が生じます。
- ◆「日本円・コース」以外の各コースでは、為替取引の対象通貨の対円レートの上昇（円安）／下落（円高）により、為替差益／為替差損が生じます。
- ◆「通貨セレクト・コース」において、選定通貨とは、以下の＜通貨の運用方針＞により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

＜通貨の運用方針＞

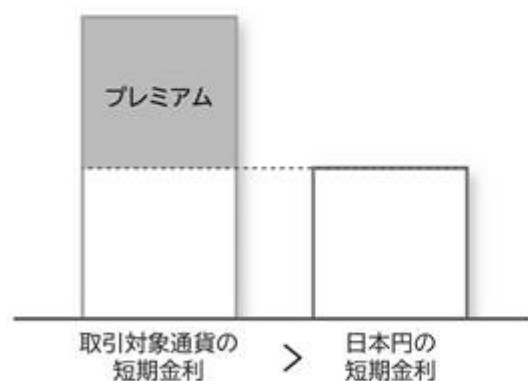
- 原則として、「FTSE世界国債インデックス」および「JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケットズ ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。
※上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合もあります。
- 選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
- 選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）／コスト（金利差相当分の費用）について

- 為替取引の対象通貨の短期金利が、日本円の短期金利よりも高い場合、「プレミアム（金利差相当分の収益）」が期待できます。
- 為替取引の対象通貨の短期金利が、日本円の短期金利よりも低い場合、「コスト（金利差相当分の費用）」が生じます。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{プレミアム／コスト} \\ \text{（金利差相当分の収益／費用）} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{取引対象通貨の短期金利} \\ \hline \begin{array}{cc} \blacklozenge \text{豪ドル} & \blacklozenge \text{ブラジル・レアル} \\ \blacklozenge \text{米ドル} & \blacklozenge \text{選定通貨} \end{array} \\ \hline \end{array} - \begin{array}{|c|} \hline \text{日本円の} \\ \text{短期金利} \\ \hline \end{array}$$

● プレミアムが期待できるケース



● コストが生じるケース



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

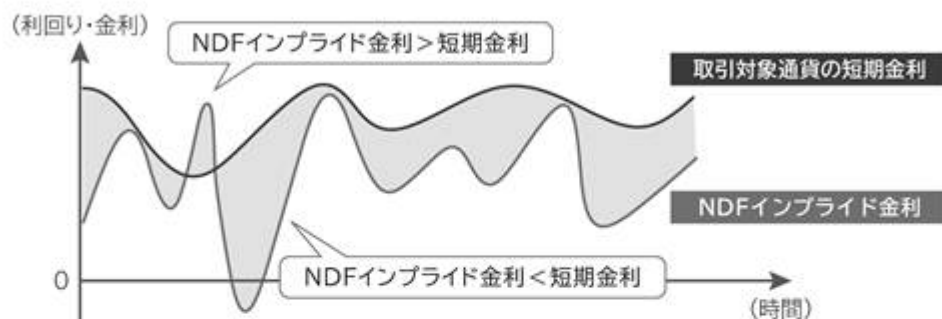
※実際の為替取引によるプレミアム／コストの水準は、需給要因等によって金利差相当分とは異なる水準となり、プレミアムの縮小、コストの拡大が生じることがあります。

※取引対象通貨が新興国通貨の場合、為替取引を行なう際にNDF（ノン・デリバブル・フォワード）取引を利用することがあります。NDF取引を用いて為替取引を行なう際、プレミアム／コストは、需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

NDF取引とは

- ◆取引対象通貨を用いた受け渡しは行わず、米ドル等の主要通貨による差金決済を相対で行なう取引です。
- ◆NDF取引価格から算出される“NDFインプライド金利”は、市場の流動性が低く、割高や割安を是正する動き（裁定）が働きにくいことから市場参加者の期待や需給などの要因により、取引対象通貨の短期金利の水準から大きく乖離する場合があります。

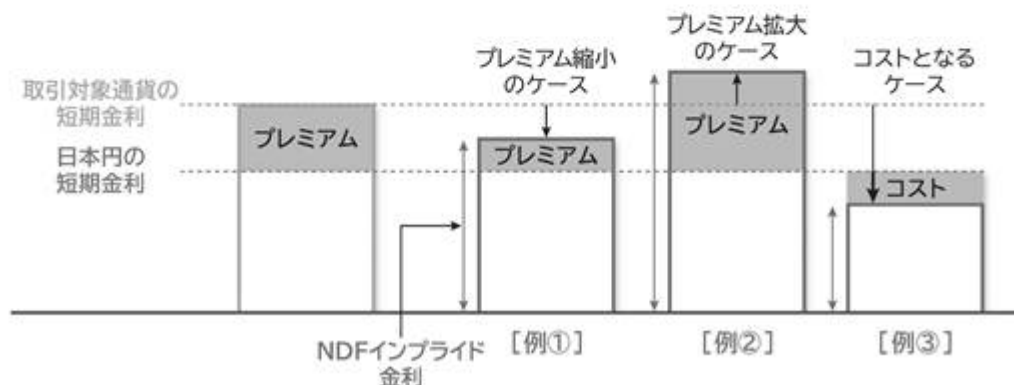
NDFインプライド金利と取引対象通貨の短期金利が乖離するイメージ



※上記はイメージであり、当ファンドのパフォーマンスとは異なります。

NDFインプライド金利の変動の影響

- ◆市場参加者の通貨上昇（下落）期待や需給などにより、NDFインプライド金利は低く（高く）なる可能性があります。NDFインプライド金利が取引対象通貨の短期金利より低く（高く）なると、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が縮小〔例①〕（拡大〔例②〕）し、場合によっては為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）となるケース〔例③〕もあります。



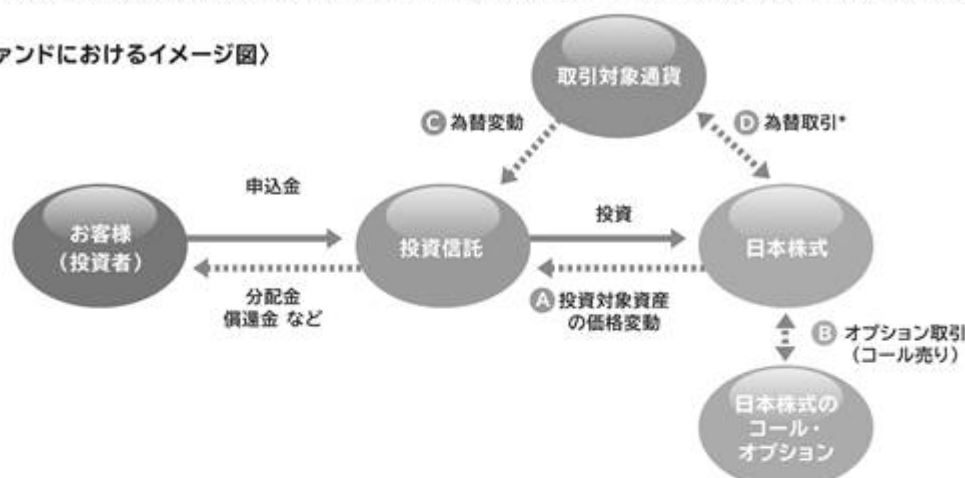
※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。
- 当ファンドでは、日本の株式に投資するとともに、個別株オプション取引および為替取引を活用します。

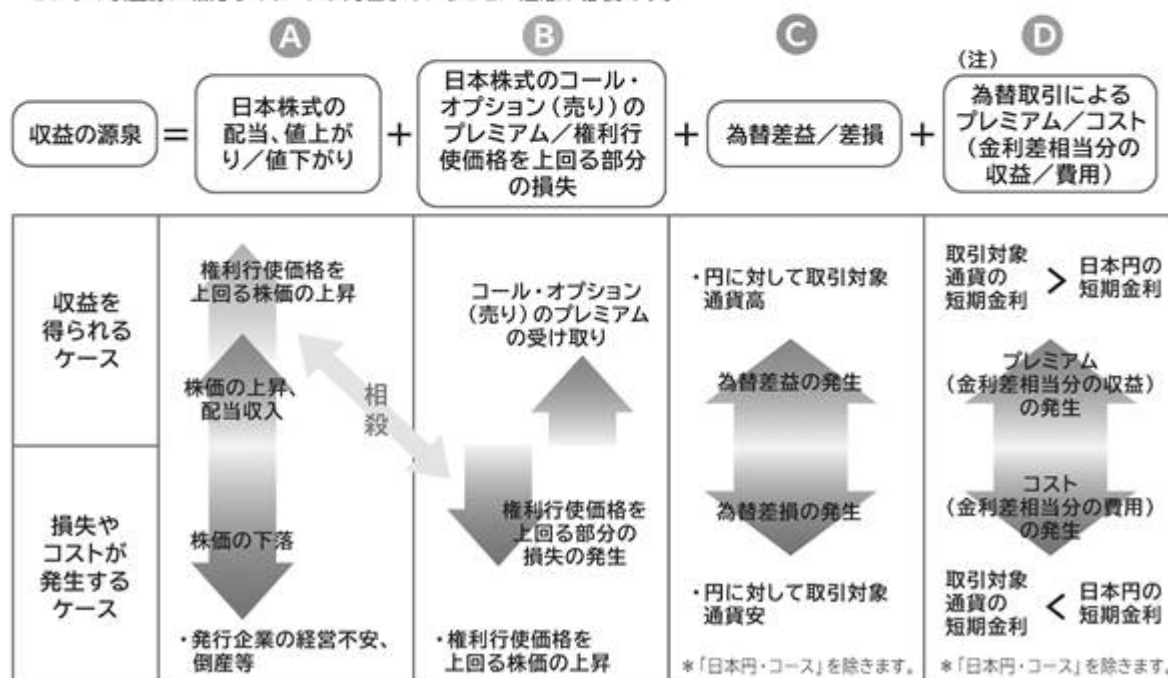
〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

- 当ファンドの収益源としては、以下の要素が挙げられます。

これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



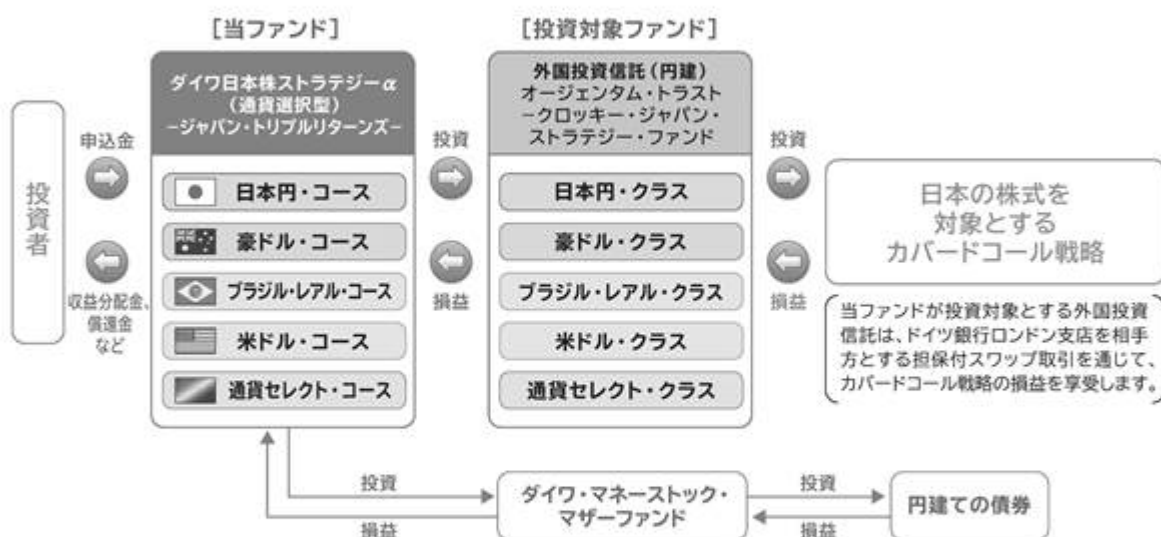
(注) 為替取引を行なう際にNDF取引を利用することがあります。

NDF取引を用いて為替取引を行なう際、為替取引によるプレミアム／コスト（金利差相当分の収益／費用）は、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

ファンドの仕組み

- ◆当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- ◆外国投資信託の受益証券を通じて、日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「日本円・コース」を除き、為替取引を行ないます。
- ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。



※5つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

※投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。

- 当ファンドは、通常の状態、投資対象とする外国投資信託への投資割合を高位に維持することを基本とします。

- 大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、ファンドの特色1. および2. の運用が行なわれないことがあります。

3

毎月8日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

- 【分配方針】**
- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
 - ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

収益分配のイメージ



※上記はイメージ図であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

※ファンドの基準価額は変動します。投資元本、利回りが保証されているものではありません。

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

〔収益分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

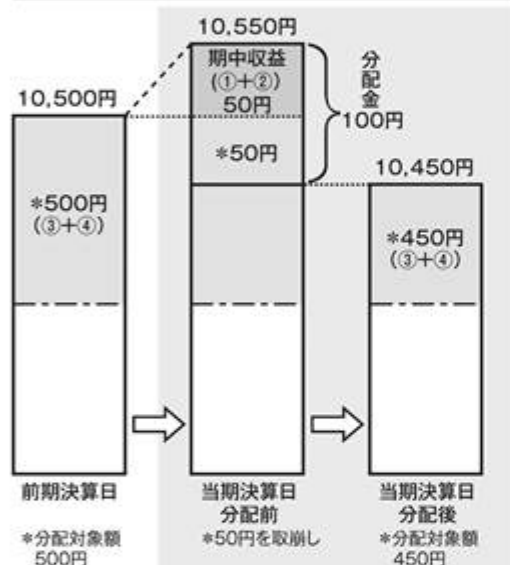
投資信託で分配金が
支払われるイメージ



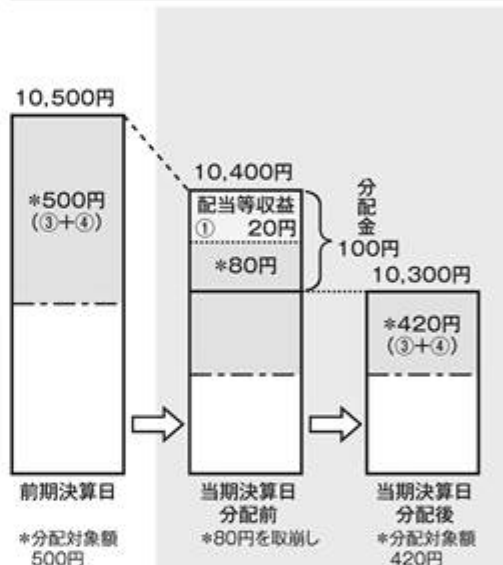
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）

（前期決算日から基準価額が上昇した場合）



（前期決算日から基準価額が下落した場合）

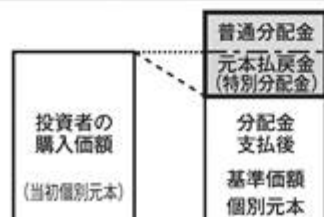


（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※ 上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

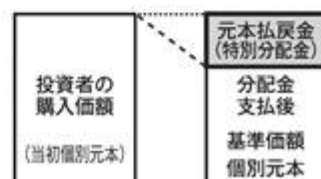
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

（分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合）



※ 元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

（分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合）



普通分配金 … 個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金 … 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

（注）普通分配金に対する課税については、「4 手数料等及び税金（5）課税上の取扱い」をご参照下さい。

<投資対象ファンドの概要>

「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」、「同（豪ドル・クラス）」、「同（ブラジル・リアル・クラス）」、「同（米ドル・クラス）」、「同（通貨セレクト・クラス）」について

形態 / 表示通貨	ケイマン籍の外国投資信託 / 円建
運用の基本方針	「日本円・クラス以外」 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。 「日本円・クラス」 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。
主要投資対象	担保付スワップ取引
運用方針	- 主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の投資成果を享受します。 - 担保付スワップ取引の相手方は、ドイツ銀行ロンドン支店です。 - カバードコール戦略の構築にあたっては、以下の点に留意します。 - 投資対象銘柄はTOPIX100構成銘柄から世界産業分類基準（GICS）の金融セクターに属する銘柄を除いた銘柄とします。 - ドイツ銀行グループが独自に開発した株式分析手法「クロッキーモデル」を用い、会計データを重点分析し、割安と判断される30銘柄を選定します。 - 選定時における各銘柄の構成比率は概ね均等とします。 - 個別銘柄ごとに、当該株式を原資産とするヨーロピアン・コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。 銘柄の見直しは約1か月ごとに行ないます。 コール・オプションの満期日は、原則として売却から約1か月後とします。 原則として、コール・オプションが満期を迎えるごとに、銘柄を見直すとともに新たにコール・オプションを売却することでカバードコール戦略を再構築します。 - 各クラスで以下の為替取引を行ないます。（日本円・クラスは除きます。） 「豪ドル・クラス」日本円売り / 豪ドル買い 「ブラジル・リアル・クラス」日本円売り / ブラジル・リアル買い 「米ドル・クラス」日本円売り / 米ドル買い 「通貨セレクト・クラス」日本円売り / 選定通貨買い <通貨セレクト・クラスについて> - 大和証券投資信託委託株式会社が通貨の選定および配分比率について助言を行ないます。 選定通貨とは、通貨運用助言会社の助言に基づき決定した複数の通貨をいいます。 <通貨セレクト・クラスにおける通貨の運用方針> - 原則として、FTSE世界国債インデックスおよびJPモルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット ブロードの構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。 上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合もあります。 - 選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。 - 選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。 - 大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

設定日	2013年6月19日
信託期間	無期限
決算日	2月末日
収益分配	原則として、毎月分配を行ないます。
管理報酬・担保付スワップにかかる費用等	「日本円・クラス、豪ドル・クラス、ブラジル・リアル・クラス、米ドル・クラス」 純資産総額に対して年率0.545%程度 「通貨セレクト・クラス」 純資産総額に対して年率0.695%程度 ただしその他、監査費用、弁護士費用、有価証券売買委託手数料等、ファンドの運営に必要な各種経費等がかかります。
申込手数料	かかりません。
管理会社	ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド
備考	当外国投資信託は、担保付スワップ取引の相手方にカバードコール戦略の構築に必要な現金を支払い、当該戦略の評価額に相当する株式、国債などを担保として受け入れます。担保付スワップ取引の相手方は、日々の担保付スワップ取引の評価を行っており、担保も洗い替えされます。担保付スワップ取引の評価には、株式等へ投資する場合にかかるコストや税金等が反映されます。

■ ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッドについて ■

ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッドは、ムーア・グループの一部を形成しています。ムーア・グループは、1996年の設立で、世界の主要金融センターの大手投資銀行から専門のオルタナティブ投資運用会社にわたる広範囲の企業や機関投資家に、ファンドの運営・管理事務やコーポレート・サービスを提供している専門サービスプロバイダーです。

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」について

形態 / 表示通貨	国内籍の証券投資信託 / 円建
運用の基本方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
投資態度	円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。 当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。
設定日	2010年3月5日
信託期間	無期限
決算日	毎年12月9日（休業日の場合翌営業日）

運用管理費用 （信託報酬）	かかりません。
委託会社	大和証券投資信託委託株式会社
受託会社	株式会社りそな銀行

(2) 【ファンドの沿革】

2013年6月19日

信託契約締結、当初設定、運用開始

2017年9月2日

信託期間終了日を2023年6月8日に変更（当初は2018年6月8日）

(3) 【ファンドの仕組み】

受益者	お申込者	
収益分配金（注）、償還金など↑↓お申込金（ 3 ）		
お取扱窓口	販売会社	受益権の募集・販売の取扱い等に関する委託会社との契約（ 1 ）に基づき、次の業務を行ないます。 受益権の募集の取扱い 一部解約請求に関する事務 収益分配金、償還金、一部解約金の支払いに関する事務 など
↑ ↓ 1	収益分配金、償還金など↑↓お申込金（ 3 ）	
委託会社	大和証券投資信託委託株式会社	当ファンドにかかる証券投資信託契約（以下「信託契約」といいます。）（ 2 ）の委託者であり、次の業務を行ないます。 受益権の募集・発行 信託財産の運用指図 信託財産の計算 運用報告書の作成 など
↓ 運用指図 ↑ ↓ 2	損益 ↑ ↓ 信託金（ 3 ）	

受託会社	株式会社 りそな銀行 再信託受託会社： 日本トラスティ・ サービス信託銀行株 式会社	信託契約（2）の受託者であり、次の業務を行ないます。なお、信託事務の一部につき日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社に委託することができます。また、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。 委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分 信託財産の計算 など
-------------	--	--

損益 ↑ ↓ 投資

投資対象	投資対象ファンドの受益証券 など
-------------	-------------------------

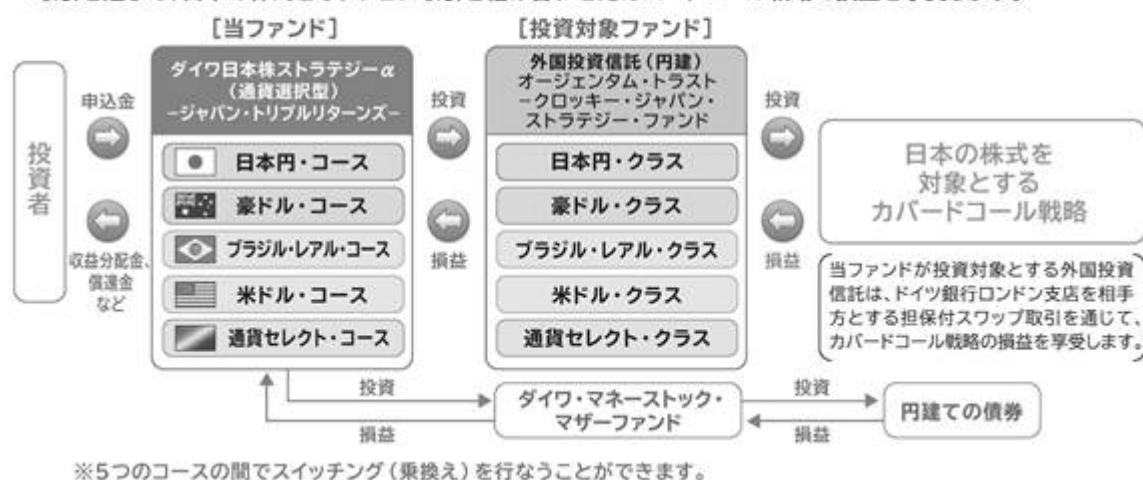
(注)「分配金再投資コース」の場合、収益分配金は自動的に再投資されます。

- 1：受益権の募集の取扱い、一部解約請求に関する事務、収益分配金、償還金、一部解約金の支払いに関する事務の内容等が規定されています。
- 2：「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づいて、あらかじめ監督官庁に届け出られた信託約款の内容に基づき締結されます。証券投資信託の運営に関する事項（運用方針、委託会社および受託会社の業務、受益者の権利、信託報酬、信託期間等）が規定されています。
- 3：販売会社は、各取得申込受付日における取得申込金額の総額に相当する金額を、追加信託が行なわれる日に、委託会社の指定する口座を経由して、受託会社の指定するファンド口座に払込みます。

委託会社および受託会社は、それぞれの業務に対する報酬を信託財産から収受します。また、販売会社には、委託会社から業務に対する代行手数料が支払われます。

ファンドの仕組み

- ◆当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- ◆外国投資信託の受益証券を通じて、日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「日本円・コース」を除き、為替取引を行ないません。
- ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。



< 委託会社の概況（2018年12月末日現在） >

・資本金の額 151億7,427万2,500円

・沿革

1959年12月12日 設立登記

1960年 2月17日 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得

1960年 4月 1日 営業開始

1985年11月 8日 投資助言・情報提供業務に関する兼業承認を受ける。

1995年 5月31日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づき投資顧問業の登録を受ける。

1995年 9月14日 「有価証券に係る投資顧問業の規制等に関する法律」に基づく投資一任契約にかかる業務の認可を受ける。

2007年 9月30日 「金融商品取引法」の施行に伴い、同法第29条の登録を受けたものとみなされる。
（金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第352号）

・大株主の状況

名 称	住 所	所有 株式数	比率
株式会社大和証券グループ本社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	株 2,608,525	% 100.00

2 【投資方針】

(1) 【投資方針】

<日本円・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」（以下「クロッキーファンド（日本円・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
2. ダイワ・マネーストック・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーファンド（日本円・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーファンド（日本円・クラス）とダイワ・マネーストック・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、クロッキーファンド（日本円・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<豪ドル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

1. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」（以下「クロッキーファンド（豪ドル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）

２．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーファンド（豪ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーファンド（豪ドル・クラス）では、日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行ないません。
- ニ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<ブラジル・リアル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

- １．ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」（以下「クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
- ２．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

投資態度

- イ．主として、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。
- ロ．当ファンドは、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。
- ハ．クロッキーファンド（ブラジル・リアル・クラス）では、日本円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ないません。
- ニ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<米ドル・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

- １．ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」（以下「クロッキーファンド（米ドル・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
- ２．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

投資態度

イ．主として、クロッキーファンド（米ドル・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。

ロ．当ファンドは、クロッキーファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

ハ．クロッキーファンド（米ドル・クラス）では、日本円売り／米ドル買いの為替取引を行ないません。

ニ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<通貨セレクト・コース>

主要投資対象

次の有価証券を主要投資対象とします。

- 1．ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」（以下「クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）」といいます。）の受益証券（円建）
- 2．ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

投資態度

イ．主として、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）の受益証券を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、為替取引を行ない、信託財産の成長をめざします。

ロ．当ファンドは、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）とダイワ・マネースtock・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

ハ．クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）では、日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行ないません。

当ファンドにおいて、選定通貨とは、クロッキーファンド（通貨セレクト・クラス）の通貨運用助言会社の助言に基づき決定した複数の通貨をいいます。

ニ．当初設定日直後、大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

<投資先ファンドについて>

投資先ファンドの選定の方針は次のとおりです。

1．日本円・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）
------------	--

選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざすファンドである。
-------	--

2. 豪ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。

3. ブラジル・リアル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／ブラジル・リアル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。

4. 米ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／米ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。

5. 通貨セレクト・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）
選定の方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。

くわしくは「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

(2) 【投資対象】

<日本円・コース>

当ファンドにおいて投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条に掲げるものをいいます。以下同じ。）

イ．有価証券

ロ．約束手形

ハ．金銭債権のうち、投資信託及び投資法人に関する法律施行規則第22条第1項第6号に掲げるもの

2. 次に掲げる特定資産以外の資産

イ．為替手形

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし株式会社りそな銀行を受託者として締結された次の1. に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2. に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3. から5.までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」の受益証券（円建）

3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの

5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

委託会社は、信託金を、前 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金

2. 指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

3. コール・ローン

4. 手形割引市場において売買される手形

<豪ドル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし株式会社りそな銀行を受託者として締結された次の1. に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2. に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3. から5.までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券

2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」の受益証券（円建）

3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの

5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<ブラジル・リアル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし株式会社りそな銀行を受託者として締結された次の1. に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2. に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3. から5.までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<米ドル・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし株式会社りそな銀行を受託者として締結された次の1. に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2. に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3. から5.までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<通貨セレクト・コース>

（日本円・コースと同規定）

委託会社は、信託金を、主として、大和証券投資信託委託株式会社を委託者とし株式会社りそな銀行を受託者として締結された次の1．に掲げる親投資信託（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券、次の2．に掲げる外国投資信託（以下「組入外国投資信託」といいます。）の受益証券、ならびに次の3．から5．までに掲げる有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図することができます。

1. ダイワ・マネースtock・マザーファンドの受益証券
2. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」の受益証券（円建）
3. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
4. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前3.の証券の性質を有するもの
5. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、前1.に掲げる投資信託の受益証券および前2.に掲げる外国投資信託の受益証券を「投資信託証券」といいます。

（日本円・コースと同規定）

<投資先ファンドについて>

ファンドの純資産総額の10%を超えて投資する可能性がある投資先ファンドの内容は次のとおりです。

1. 日本円・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざすファンドである。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

2. 豪ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／豪ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

3. ブラジル・リアル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）
------------	---

運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／ブラジル・レアル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

4．米ドル・コース

投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／米ドル買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

5．通貨セレクト・コース

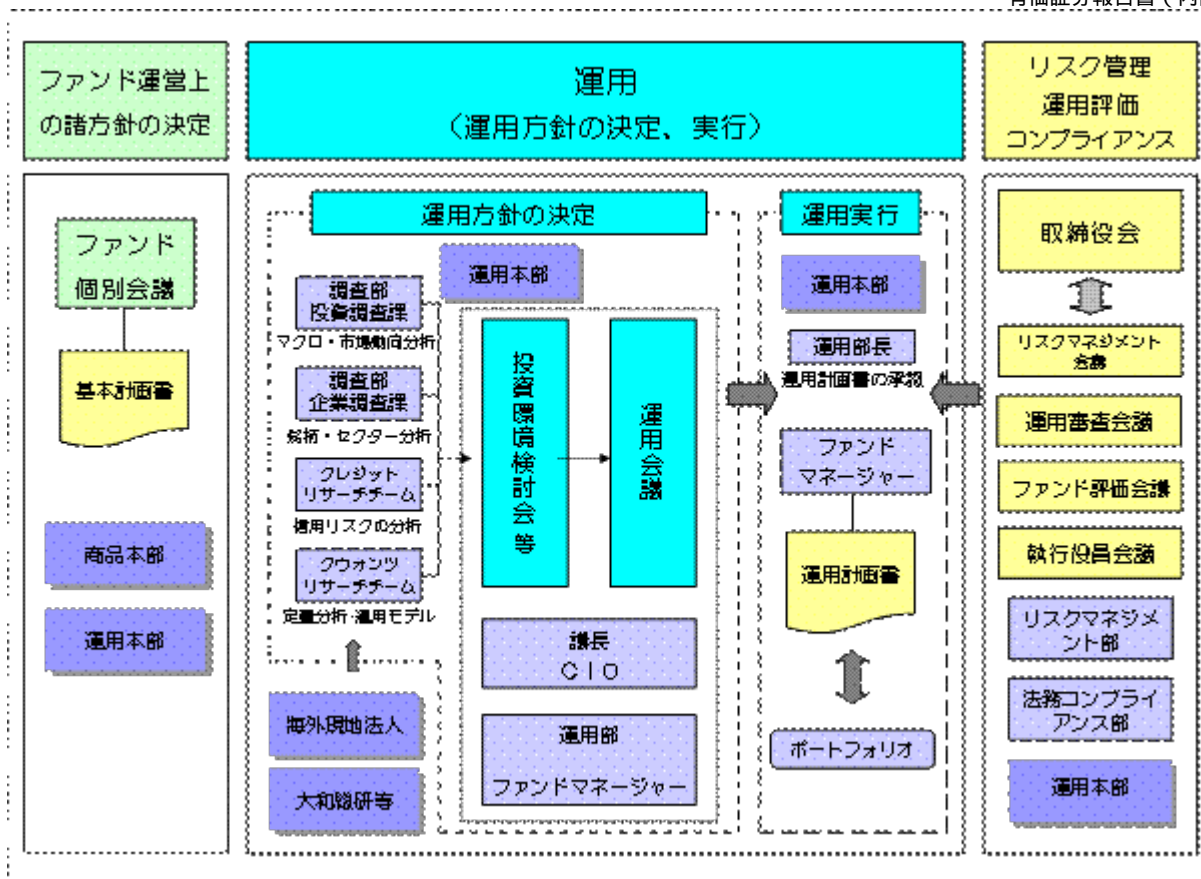
投資先ファンドの名称	オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）
運用の基本方針	主として、担保付スワップ取引を通じて、割安と判断される日本の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、日本円売り／選定通貨買いの為替取引を行ない、信託財産の成長をめざすファンドである。
主要な投資対象	担保付スワップ取引
委託会社等の名称	管理会社：ムーア・マネジメント（バミューダ）リミテッド

くわしくは「1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

(3) 【運用体制】

運用体制

ファンドの運用体制は、以下のとおりとなっています。



運用方針の決定にかかる過程

運用方針は次の過程を経て決定しております。

イ．基本計画書の策定

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を経営会議の分科会であるファンド個別会議において審議・決定します。

ロ．投資環境の検討

運用最高責任者であるCIO（Chief Investment Officer）が議長となり、原則として月1回投資環境検討会を開催し、投資環境について検討します。

ハ．基本的な運用方針の決定

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ．運用計画書の作成・承認

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

職務権限

ファンド運用の意思決定機能を担う運用本部において、各職位の主たる職務権限は、社内規則によって、次のように定められています。

イ．CIO（Chief Investment Officer）（1名）

運用最高責任者として、次の職務を遂行します。

- ・ファンド運用に関する組織運営
- ・ファンドマネージャーの任命・変更

- ・運用会議の議長として、基本的な運用方針の決定
- ・各ファンドの分配政策の決定
- ・代表取締役に対する随時の的確な状況報告
- ・その他ファンドの運用に関する重要事項の決定

ロ．Deputy-CIO（0～5名程度）

CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ハ．インベストメント・オフィサー（0～5名程度）

CIOおよびDeputy-CIOを補佐し、その指揮を受け、職務を遂行します。

ニ．運用部長（各運用部に1名）

ファンドマネージャーが策定する運用計画を承認します。

ホ．ファンドマネージャー

ファンドの運用計画を策定して、これに沿ってポートフォリオを構築します。

ファンド評価会議、運用審査会議、リスクマネジメント会議および執行役員会議

次のとおり各会議体において必要な報告・審議等を行なっています。これら会議体の事務局となる内部管理関連部門の人員は25～35名程度です。

イ．ファンド評価会議

運用実績・運用リスクの状況について、分析・検討を行ない、運用部にフィードバックします。

ロ．運用審査会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用実績の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ハ．リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

ニ．執行役員会議

経営会議の分科会として、法令等の遵守状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

受託会社に対する管理体制

受託会社に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行なっています。また、受託会社より内部統制の整備および運用状況の報告書を受け取っています。

上記の運用体制は2018年12月末日現在のものであり、変更となる場合があります。

(4) 【分配方針】

<各ファンド共通>

分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とします。

原則として、継続的な分配を行なうことを目標に分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

留保益は、前(1)に基づいて運用します。

(5) 【投資制限】

<各ファンド共通>

株式（信託約款）

株式への直接投資は、行ないません。

投資信託証券（信託約款）

投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

外貨建資産（信託約款）

外貨建資産への直接投資は、行ないません。

資金の借入れ（信託約款）

イ．委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。

ロ．一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から、信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間、または解約代金の入金日までの間、もしくは償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金借入額は、借入指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。

ハ．収益分配金の再投資にかかる借入期間は、信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。

ニ．借入金の利息は信託財産中から支弁します。

<参 考> 投資対象ファンドについて

- 1．クロッキーファンド（日本円・クラス）、同（豪ドル・クラス）、同（ブラジル・リアル・クラス）、同（米ドル・クラス）、同（通貨セレクト・クラス）

「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

2．ダイワ・マネースtock・マザーファンド

下記以外の項目（「基本方針」、「投資態度」、「運用管理費用（信託報酬）」等）については、「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」をご参照下さい。

主な投資制限	株式への投資は、転換社債の転換および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限りません。）の行使等により取得したものに限りません。 株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 投資信託証券（上場投資信託証券を除きます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資は、行ないません。
--------	---

償還条項	信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
------	---

3 【投資リスク】

(1) 価額変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。委託会社の指図に基づく行為により信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資信託は預貯金とは異なります。

投資者のみなさまにおかれましては、当ファンドの内容・リスクを十分ご理解のうえお申込み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

基準価額の主な変動要因については、次のとおりです。

株式の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。選定銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

当ファンドは、銘柄数を絞り込んだ運用を行なうため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。

カバードコール戦略の利用に伴うリスク

オプションプレミアムの水準は、オプション売却時の株価水準、権利行使価格、株価変動率（ボラティリティ）、満期日までの期間、金利水準、配当金額、需給等により決定されます。想定したオプションプレミアムが確保できない場合もあります。

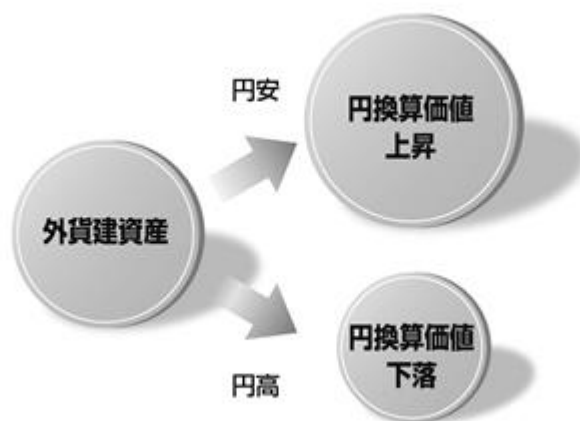
株価水準や株価変動率の変動等によりコール・オプションの評価値が変動し、損失を被る場合があります。

カバードコール戦略では、株価が上昇した場合の値上がり益が限定されるため、株式のみに投資した場合に対して投資成果が劣後する可能性があります。戦略再構築を重ねた場合、株価が下落しその後当初の水準程度まで回復しても、基準価額の回復は株価に比べて緩やかになる可能性があります。

当ファンドでは個別銘柄ごとにカバードコール戦略を構築するため、株価上昇時の値上がり益が個別銘柄ごとに限定される結果、投資成果が株式市場全体の動きに対して劣後する可能性があります。

為替変動リスク（日本円・コース以外）

〈為替変動のイメージ図〉



※上図はイメージ図であり、当ファンドの運用成果を表すものではありません。

取引対象通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。新興国通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

取引対象通貨の金利が日本円の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

各ファンドの投資対象である外国投資信託において、NDF取引を用いて為替取引を行なう場合、コストは需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。スワップ取引の利用に伴うリスク

スワップ取引の相手方に債務不履行や倒産その他の事態が生じた場合、カバードコール戦略の投資成果を享受することができず、ファンドの運用の継続が困難となり、予想外の損失を被る可能性があります。また、スワップ取引の相手方から受入れた担保を想定した価格で処分できない場合があることから損失を被る可能性があります。

当ファンドが投資対象とする外国投資信託は、スワップ取引の相手方が取引する株式やオプションについて何ら権利を有しません。

その他

イ．解約資金を手当てするためカバードコール戦略を解消（株式の売却およびオプションの買戻し）する際、市場規模や市場動向によっては当初期待される価格で解消できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

ロ．ファンド資産をコール・ローン、譲渡性預金証書等の短期金融資産で運用する場合、債務不履行により損失が発生することがあります（信用リスク）。この場合、基準価額が下落する要因となります。

(2) 換金性等が制限される場合

通常と異なる状況において、お買付け・ご換金に制限を設けることがあります。

金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、お買付け、ご換金の申込みの受付けを中止することがあります。

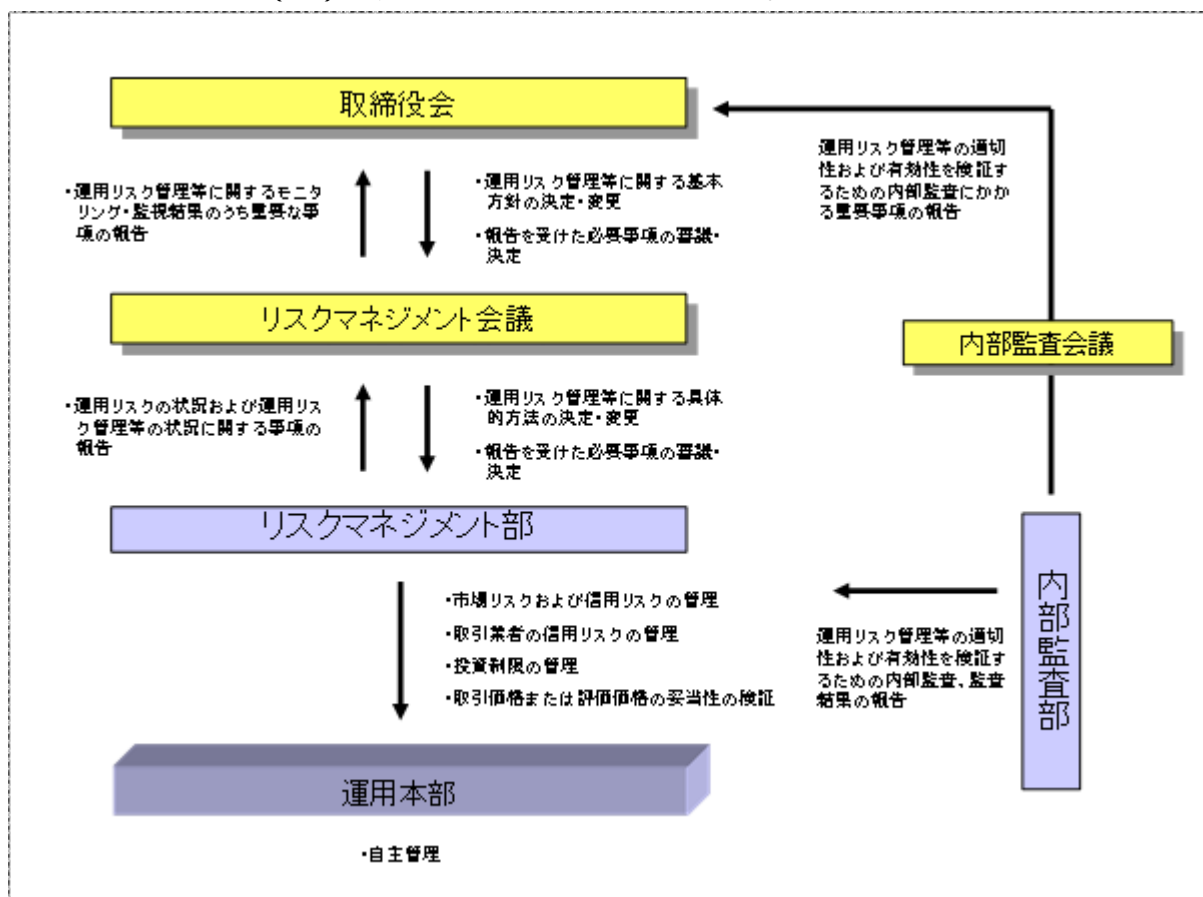
ご換金の申込みの受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日のご換金の申込みを撤回することができます。ただし、受益者がそのご換金の申込みを撤回しない場合には、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日にご換金の申込みを受付けたものとして取扱います。

(3) その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

(4) リスク管理体制

運用リスク管理体制（ ）は、以下のとおりとなっています。



流動性リスクに対する管理体制

当社では、運用リスクのうち、大量の解約・換金によって必要となる資金の確保のために合理的な条件での取引が困難となるリスク、および市場の混乱、取引所における休業、取引の停止等により市場において取引ができないまたは合理的な条件での取引が困難となるリスクを「流動性リスク」とし、当社の運用する信託財産における流動性リスクの防止および流動性リスク発生時における円滑な事務遂行を目的とした事前対策、ならびに流動性リスク発生時における対応策（コンティンジェンシー・プラン）を定めています。

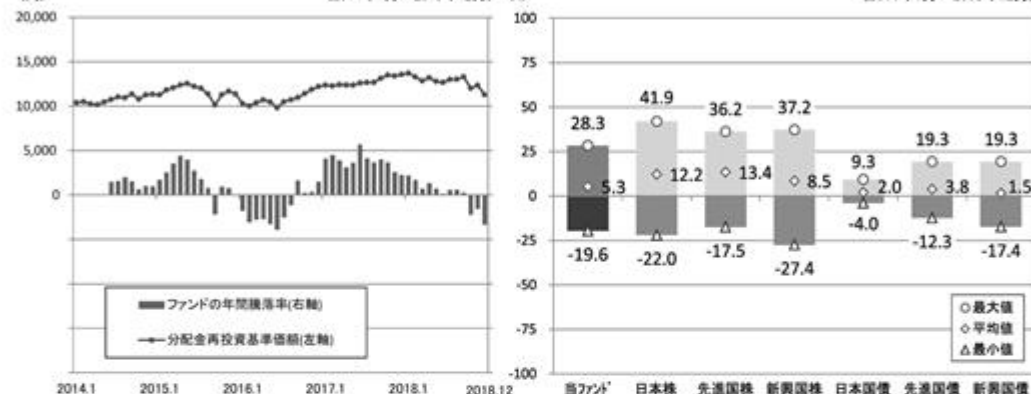
参考情報

- 下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。
右のグラフは過去5年間に於ける年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。また左のグラフはファンドの過去5年間に於ける年間騰落率の推移を表示しています。

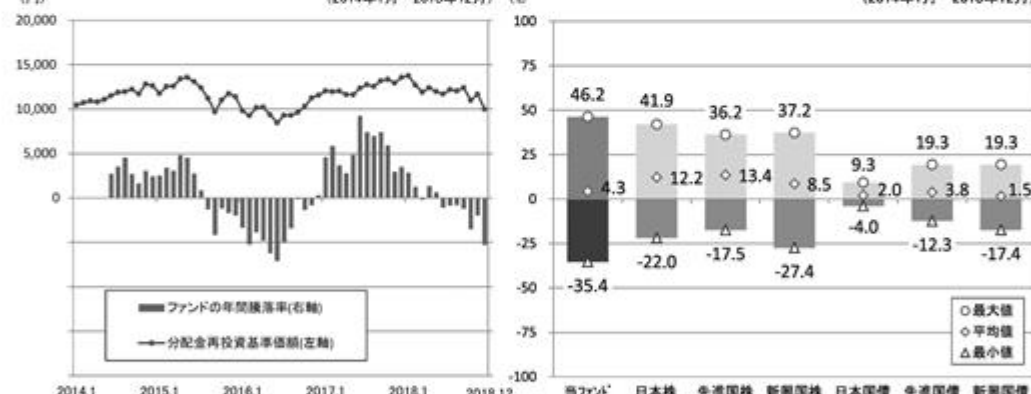
ファンドの年間騰落率と分配金再投資基準価額の推移

他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

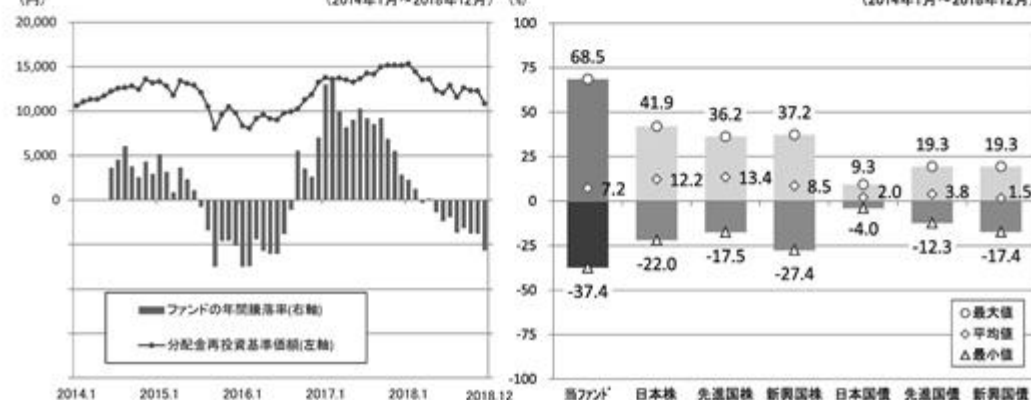
[ダイワ日本株戦略ーα(通貨選択型)ージャパン・トリプルリターンズー 日本円・コース(毎月分配型)]
(円) (2014年1月～2018年12月) (%) (2014年1月～2018年12月)



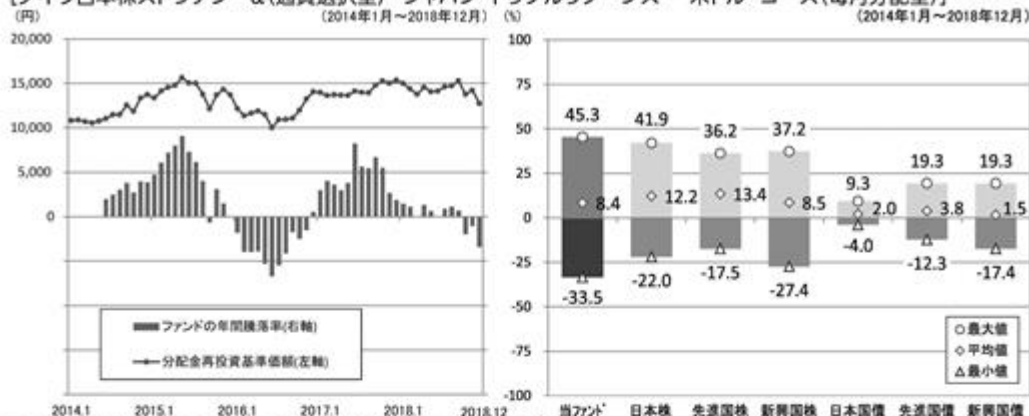
[ダイワ日本株戦略ーα(通貨選択型)ージャパン・トリプルリターンズー 豪ドル・コース(毎月分配型)]
(円) (2014年1月～2018年12月) (%) (2014年1月～2018年12月)



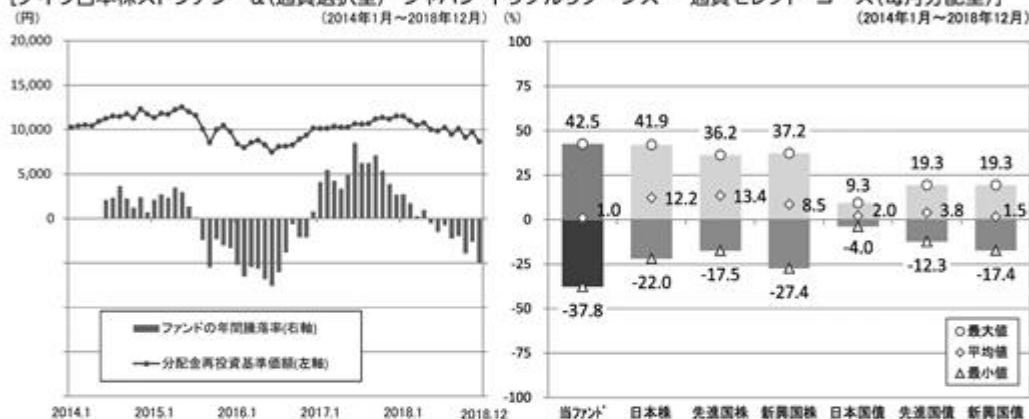
[ダイワ日本株戦略ーα(通貨選択型)ージャパン・トリプルリターンズー ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)]
(円) (2014年1月～2018年12月) (%) (2014年1月～2018年12月)



【ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)ージャパン・トリプルリターンズー 米ドル・コース(毎月分配型)】



【ダイワ日本株ストラテジーα(通貨選択型)ージャパン・トリプルリターンズー 通貨セレクト・コース(毎月分配型)】



※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株：東証株価指数(TOPIX) (配当込み)
 先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)
 新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)
 日本国債：NOMURA-BPI国債
 先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
 新興国債：JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド(円ベース)

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。●JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスー エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

4 【手数料等及び税金】

(1) 【申込手数料】

販売会社におけるお買付時の申込手数料の料率の上限は、3.24%（税抜3.0%）となっています。
 具体的な手数料の料率等については、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。

- ・お電話によるお問い合わせ先（委託会社）

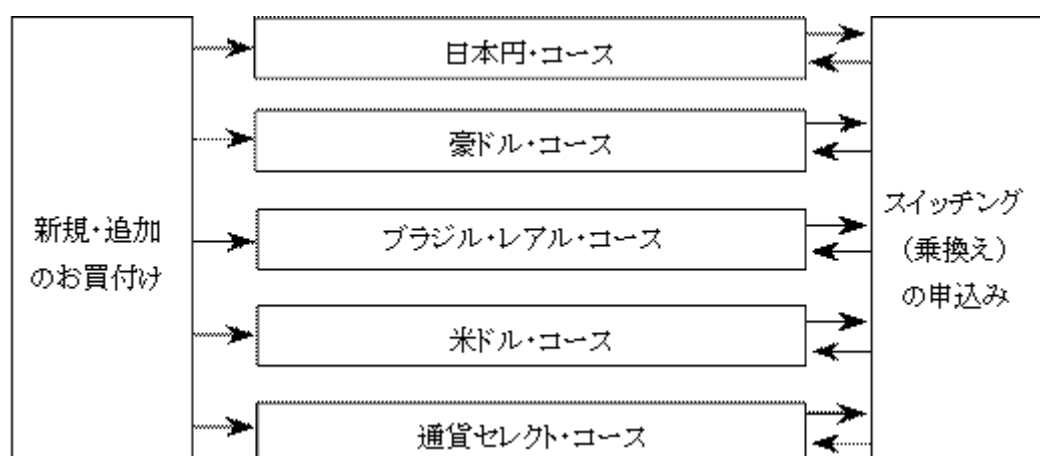
電話番号（コールセンター） 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

<スイッチング（乗換え）について>

- ・「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 」を構成する各ファンドの受益者が、保有する受益権を換金した手取金をもって、他の構成ファンドの受益権の取得申込みを行なうことをいいます。
- ・スイッチング（乗換え）の申込みの際には、換金の申込みを行なうファンドと、取得の申込みを行なうファンドをご指示下さい。
- ・スイッチング（乗換え）にかかる申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は、スイッチング（乗換え）の金額から差引かせていただきます。

（「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 」の構成）



申込手数料には、消費税等が課されます。

「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

申込手数料は、お買付時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。くわしくは販売会社にお問い合わせ下さい。

(2) 【換金(解約)手数料】

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

信託終了前の解約の際に1万口当たり一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額の0.3%を信託財産留保額としてご負担いただきます。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年率1.4634%（税抜1.355%）を乗じて得た額とします。信託報酬は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる消費税等に相当する金額を、信託報酬支弁のときに信託財産中から支弁します。

信託報酬にかかる委託会社、販売会社、受託会社への配分については、純資産総額に対し次のとおりです。

委託会社	販売会社	受託会社
年率0.48%（税抜）	年率0.85%（税抜）	年率0.025%（税抜）

上記の信託報酬の配分には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

前 の販売会社への配分は、販売会社の行なう業務に対する代行手数料であり、委託会社が一旦信託財産から収受した後、販売会社に支払われます。

当ファンドの信託報酬等のほかに、投資対象ファンドに関しても信託報酬等がかかります。当ファンドの信託報酬に投資対象ファンドの信託報酬等（クロッキーの指数計算報酬を含みます。）を加えた、投資者が実質的に負担する信託報酬率は、「通貨セレクト・コース」以外については年率2.0084%（税込）程度、「通貨セレクト・コース」については年率2.1584%（税込）程度です。

ただし、投資対象ファンドの信託報酬等に下限金額が設定されているため、純資産総額によって、実質的な信託報酬率が「通貨セレクト・コース」以外については年率2.0084%（税込）、「通貨セレクト・コース」については年率2.1584%（税込）を上回ることがあります。

（注）投資対象ファンドの信託報酬等については、「1 ファンドの性格（1）ファンドの目的及び基本的性格 <ファンドの特色>」の「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。

信託報酬を対価とする役務の内容は、配分先に応じて、それぞれ以下のとおりです。

委託会社：ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価

販売会社：運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価

受託会社：運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価

（4）【その他の手数料等】

信託財産において資金借入れを行なった場合、当該借入金の利息は信託財産中より支弁します。

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、受託会社の立替えた立替金の利息および信託財産にかかる監査報酬ならびに当該監査報酬にかかる消費税等に相当する金額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

信託財産に属する有価証券等に関連して発生した訴訟係争物たる権利その他の権利に基づいて益金が生じた場合、当該支払いに際して特別に必要となる費用（データ処理費用、郵送料等）は、受益者の負担とし、当該益金から支弁します。

信託財産で有価証券の売買を行なう際に発生する売買委託手数料、当該売買委託手数料にかかる消費税等に相当する金額、信託財産に属する資産を外国で保管する場合の費用は、信託財産中より支弁します。

（ ）「その他の手数料等」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

<投資対象ファンドより支弁する手数料等>

各ファンドの投資対象等に応じて、信託財産に関する租税、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を支弁します。その他、マザーファンドを除く投資対象ファンドからは監査報酬を支弁します。

(5) 【課税上の取扱い】

課税上は株式投資信託として取扱われます。

個人の投資者に対する課税

イ．収益分配金に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として課税され、20%（所得税15%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ロ．解約金および償還金に対する課税

一部解約時および償還時の差益（解約価額および償還価額から取得費用（申込手数料（税込）を含む）を控除した利益）については、譲渡所得とみなされ、20%（所得税15%および地方税5%）の税率により、申告分離課税が適用されます。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。

ハ．損益通算について

一部解約時および償還時の損失については、確定申告により、上場株式等（特定公社債、公募公社債投資信託を含みます。）の譲渡益および償還差益と相殺することができ、申告分離課税を選択した上場株式等の配当所得および利子所得との損益通算も可能となります。また、翌年以後3年間、上場株式等の譲渡益・償還差益および配当等・利子から繰越控除することができます。一部解約時および償還時の差益については、他の上場株式等の譲渡損および償還差損との相殺が可能となります。

なお、特定口座にかかる課税上の取扱いにつきましては、販売会社にお問合わせ下さい。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

公募株式投資信託は、税法上、少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象です。満20歳以上の方を対象としたNISAをご利用の場合、毎年、年間120万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります（他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。）。また、20歳未満の方を対象とした非課税制度「ジュニアNISA」をご利用の場合、毎年、年間80万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります（他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。）。

ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方となります。当ファンドの非課税口座における取扱いには販売会社により異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。

法人の投資者に対する課税

法人の投資者が支払いを受ける収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに一部解約時および償還時の個別元本超過額については配当所得として課税され、15%（所得税15%）の税率で源泉徴収され法人の受取額となります。地方税の源泉徴収はありません。収益分配金のうち所得税法上課税対象となるのは普通分配金のみであり、元本払戻金（特別分配金）には課税されません。ただし、2037年12月31日まで基準所得税額に2.1%の税率を乗じた復興特別所得税が課され、税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。なお、益金不算入制度の適用はありません。

源泉徴収された税金は法人税から控除されます。

<注1> 個別元本について

投資者ごとの信託時の受益権の価額等（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。）が当該投資者の元本（個別元本）にあたります。

投資者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該投資者が追加信託を行なうつど当該投資者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、個別元本は、複数支店で同一ファンドをお申込みの場合などにより把握方法が異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。

投資者が元本払戻金（特別分配金）を受取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の当該投資者の個別元本となります。

<注2> 収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（投資者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

投資者が収益分配金を受取る際、イ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本と同額の場合または当該投資者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、ロ．当該収益分配金落ち後の基準価額が当該投資者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、当該収益分配金から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。

（ ）上記は、2018年12月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。

（ ）課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

5 【運用状況】

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース
（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（2018年12月28日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	2,951,642,767	99.33
内 ケイマン諸島	2,951,642,767	99.33
親投資信託受益証券	399,641	0.01
内 日本	399,641	0.01
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	19,491,608	0.66
純資産総額	2,971,534,016	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（2018年12月28日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 また は 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	CROCI JAPAN STRATEGY FUND JPY CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	43,292,550.01	73.48 3,181,183,824	68.17 2,951,642,767	99.33
2	ダイワ・マネースtock・マザー ファンド	日本	親投資 信託受 益証券	398,764	1.0022 399,641	1.0022 399,641	0.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	99.33%
親投資信託受益証券	0.01%
合計	99.34%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

八．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年12月9日)	14,665,774,676	14,751,359,375	1.0282	1.0342
第2特定期間末 (2014年6月9日)	15,221,709,240	15,313,713,802	0.9927	0.9987
第3特定期間末 (2014年12月8日)	13,202,701,707	13,278,969,796	1.0387	1.0447
第4特定期間末 (2015年6月8日)	12,327,200,489	12,394,968,884	1.0914	1.0974
第5特定期間末 (2015年12月8日)	10,351,655,323	10,414,834,838	0.9831	0.9891
第6特定期間末 (2016年6月8日)	7,341,193,880	7,393,609,700	0.8403	0.8463
第7特定期間末 (2016年12月8日)	6,416,258,742	6,458,226,986	0.9173	0.9233
第8特定期間末 (2017年6月8日)	5,184,593,988	5,218,184,318	0.9261	0.9321
第9特定期間末 (2017年12月8日)	4,298,213,155	4,325,236,652	0.9543	0.9603
2017年12月末日	4,320,646,012	-	0.9698	-
2018年1月末日	4,278,924,092	-	0.9752	-
2月末日	4,099,771,101	-	0.9396	-
3月末日	3,825,350,346	-	0.9010	-
4月末日	3,811,978,800	-	0.9198	-
5月末日	3,669,448,401	-	0.8857	-

第10特定期間末 (2018年6月8日)	3,730,885,758	3,755,605,919	0.9055	0.9115
6月末日	3,553,239,731	-	0.8718	-
7月末日	3,564,373,657	-	0.8886	-
8月末日	3,661,143,244	-	0.8837	-
9月末日	3,657,625,636	-	0.8960	-
10月末日	3,271,623,293	-	0.8042	-
11月末日	3,317,043,059	-	0.8203	-
第11特定期間末 (2018年12月10日)	3,185,090,789	3,209,109,019	0.7957	0.8017
12月末日	2,971,534,016	-	0.7442	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0300
第2特定期間	0.0360
第3特定期間	0.0360
第4特定期間	0.0360
第5特定期間	0.0360
第6特定期間	0.0360
第7特定期間	0.0360
第8特定期間	0.0360
第9特定期間	0.0360
第10特定期間	0.0360
第11特定期間	0.0360

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	5.8
第2特定期間	0.0
第3特定期間	8.3
第4特定期間	8.5
第5特定期間	6.6
第6特定期間	10.9
第7特定期間	13.4
第8特定期間	4.9
第9特定期間	6.9
第10特定期間	1.3
第11特定期間	8.2

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	5,824,089,179	1,506,696,200
第2特定期間	2,285,214,962	1,215,237,854
第3特定期間	771,194,252	3,393,939,730
第4特定期間	889,616,675	2,306,232,284
第5特定期間	1,535,220,980	2,300,034,383
第6特定期間	760,195,291	2,554,144,461
第7特定期間	176,753,243	1,918,015,925
第8特定期間	89,970,440	1,486,289,512
第9特定期間	86,043,306	1,180,515,431
第10特定期間	62,069,227	445,958,597
第11特定期間	225,822,182	342,810,586

(注) 当初設定数量は9,946,723,661口です。

(参考) マザーファンド

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

(1) 投資状況 (2018年12月28日現在)

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	47,978,724,753	100.00
純資産総額	47,978,724,753	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 投資資産 (2018年12月28日現在)

投資有価証券の主要銘柄

イ．主要銘柄の明細

該当事項はありません。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

該当事項はありません。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

投資不動産物件

該当事項はありません。

その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

（参考情報）運用実績

● ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 日本円・コース（毎月分配型）

2018年12月28日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	7,442円
純資産総額	29億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-8.6%
3カ月間	-15.1%
6カ月間	-10.9%
1年間	-16.7%
3年間	-0.7%
5年間	4.3%
設定来	12.7%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 720円

設定来分配金合計額: 3,900円

決算期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
	18年1月	18年2月	18年3月	18年4月	18年5月	18年6月	18年7月	18年8月	18年9月	18年10月	18年11月	18年12月
分配金	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

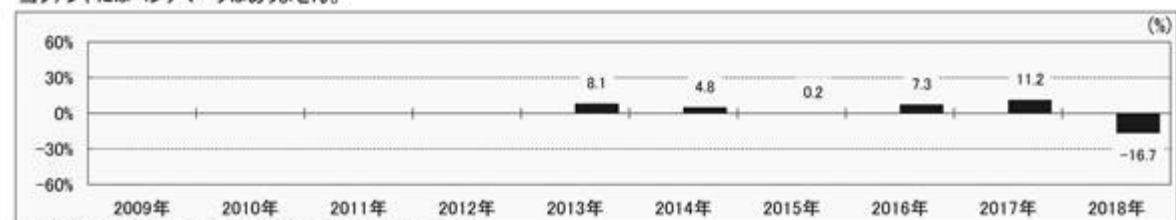
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド(日本円・クラス)	99.3%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0%
合計		99.3%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(6月19日)から年末、2018年は12月28日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 豪ドル・コース
（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（2018年12月28日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	634,133,612	98.14
内 ケイマン諸島	634,133,612	98.14
親投資信託受益証券	99,910	0.02
内 日本	99,910	0.02
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	11,890,039	1.84
純資産総額	646,123,561	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（2018年12月28日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 また は 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	CROCI JAPAN STRATEGY FUND AUD CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	11,762,819.74	61.02 717,807,260	53.91 634,133,612	98.14
2	ダイワ・マネースtock・マザーファ ンド	日本	親投資 信託受 益証券	99,691	1.0022 99,910	1.0022 99,910	0.02

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.14%
親投資信託受益証券	0.02%
合計	98.16%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年12月9日)	4,358,516,570	4,391,335,284	1.0624	1.0704
第2特定期間末 (2014年6月9日)	5,027,028,513	5,065,470,202	1.0462	1.0542
第3特定期間末 (2014年12月8日)	5,035,410,629	5,070,290,842	1.1549	1.1629
第4特定期間末 (2015年6月8日)	4,174,340,713	4,203,392,881	1.1495	1.1575
第5特定期間末 (2015年12月8日)	3,101,616,078	3,127,627,169	0.9539	0.9619
第6特定期間末 (2016年6月8日)	2,130,755,511	2,154,945,095	0.7047	0.7127
第7特定期間末 (2016年12月8日)	1,980,539,874	2,000,514,797	0.7932	0.8012
第8特定期間末 (2017年6月8日)	1,442,034,363	1,457,046,008	0.7685	0.7765
第9特定期間末 (2017年12月8日)	1,186,107,576	1,198,006,459	0.7975	0.8055
2017年12月末日	1,228,371,802	-	0.8411	-
2018年1月末日	1,210,947,031	-	0.8438	-
2月末日	1,103,707,858	-	0.7724	-
3月末日	932,193,389	-	0.7156	-
4月末日	957,261,125	-	0.7370	-
5月末日	930,803,827	-	0.7042	-
第10特定期間末 (2018年6月8日)	966,212,037	976,769,799	0.7321	0.7401
6月末日	888,318,421	-	0.6803	-
7月末日	917,798,155	-	0.7003	-
8月末日	865,915,195	-	0.6838	-
9月末日	866,585,692	-	0.6958	-

10月末日	755,145,814	-	0.6093	-
11月末日	765,559,871	-	0.6384	-
第11特定期間末 (2018年12月10日)	720,354,924	729,891,771	0.6043	0.6123
12月末日	646,123,561	-	0.5399	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0400
第2特定期間	0.0480
第3特定期間	0.0480
第4特定期間	0.0480
第5特定期間	0.0480
第6特定期間	0.0480
第7特定期間	0.0480
第8特定期間	0.0480
第9特定期間	0.0480
第10特定期間	0.0480
第11特定期間	0.0480

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	10.2
第2特定期間	3.0
第3特定期間	15.0
第4特定期間	3.7
第5特定期間	12.8
第6特定期間	21.1
第7特定期間	19.4
第8特定期間	2.9
第9特定期間	10.0
第10特定期間	2.2
第11特定期間	10.9

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	1,939,684,254	692,930,165
第2特定期間	1,314,777,518	611,905,580

第3特定期間	933,933,564	1,379,118,054
第4特定期間	374,536,235	1,103,041,881
第5特定期間	241,143,670	621,278,354
第6特定期間	201,454,561	429,142,911
第7特定期間	119,484,793	646,317,379
第8特定期間	145,211,252	765,620,963
第9特定期間	32,651,319	421,746,611
第10特定期間	50,627,292	218,267,446
第11特定期間	43,428,382	171,042,706

（注） 当初設定数量は2,855,585,179口です。

（参考）マザーファンド

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

（参考情報）運用実績

● ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 豪ドル・コース（毎月分配型）

2018年12月28日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	5,399円
純資産総額	6.4億円

基準価額の騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-14.3%
3カ月間	-19.4%
6カ月間	-14.6%
1年間	-26.4%
3年間	-12.3%
5年間	-11.3%
設定来	-0.1%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 960円

設定来分配金合計額: 5,200円

決算期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
	18年1月	18年2月	18年3月	18年4月	18年5月	18年6月	18年7月	18年8月	18年9月	18年10月	18年11月	18年12月
分配金	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円	80円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

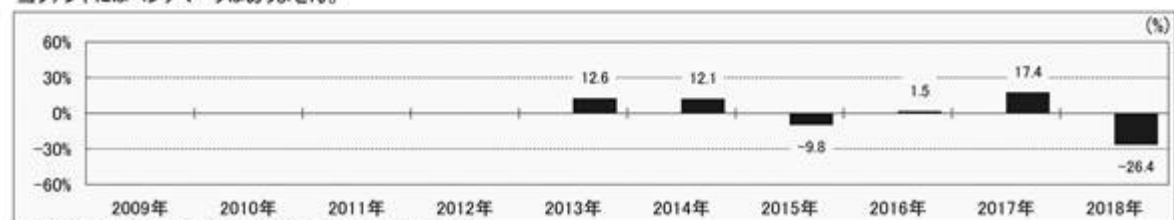
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド(豪ドル・クラス)	98.1%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0%
合計		98.2%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(6月19日)から年末、2018年は12月28日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（2018年12月28日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	3,840,553,526	98.68
内 ケイマン諸島	3,840,553,526	98.68
親投資信託受益証券	399,641	0.01
内 日本	399,641	0.01
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	51,053,089	1.31
純資産総額	3,892,006,256	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（2018年12月28日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 または 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	CROCI JAPAN STRATEGY FUND BRL CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	104,113,899.53	41.09 4,278,178,935	36.88 3,840,553,526	98.68
2	ダイワ・マネースtock・マザー ファンド	日本	親投資 信託受 益証券	398,764	1.0022 399,641	1.0022 399,641	0.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.68%
親投資信託受益証券	0.01%
合計	98.69%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年12月9日)	17,571,613,492	17,738,293,014	1.0542	1.0642
第2特定期間末 (2014年6月9日)	20,127,683,953	20,410,602,369	1.0671	1.0821
第3特定期間末 (2014年12月8日)	29,388,924,582	29,777,117,396	1.1356	1.1506
第4特定期間末 (2015年6月8日)	27,402,969,324	27,812,364,660	1.0040	1.0190
第5特定期間末 (2015年12月8日)	17,382,459,007	17,754,405,837	0.7010	0.7160
第6特定期間末 (2016年6月8日)	12,191,379,587	12,422,618,088	0.5272	0.5372
第7特定期間末 (2016年12月8日)	11,822,893,087	12,016,813,476	0.6097	0.6197
第8特定期間末 (2017年6月8日)	9,716,991,864	9,875,813,986	0.6118	0.6218
第9特定期間末 (2017年12月8日)	8,121,692,946	8,251,275,623	0.6268	0.6368
2017年12月末日	8,157,909,299	-	0.6404	-
2018年1月末日	7,908,182,222	-	0.6387	-
2月末日	7,175,454,824	-	0.5912	-
3月末日	6,541,375,237	-	0.5441	-
4月末日	6,317,914,066	-	0.5374	-
5月末日	5,587,375,126	-	0.4785	-
第10特定期間末 (2018年6月8日)	5,427,495,490	5,543,869,800	0.4664	0.4764
6月末日	5,335,921,445	-	0.4568	-
7月末日	5,447,836,038	-	0.4781	-
8月末日	4,721,474,677	-	0.4198	-
9月末日	4,976,585,443	-	0.4508	-

10月末日	4,712,670,915	-	0.4332	-
11月末日	4,533,711,413	-	0.4251	-
第11特定期間末 (2018年12月10日)	4,292,562,347	4,366,649,031	0.4056	0.4126
12月末日	3,892,006,256	-	0.3692	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0500
第2特定期間	0.0650
第3特定期間	0.0900
第4特定期間	0.0900
第5特定期間	0.0900
第6特定期間	0.0850
第7特定期間	0.0600
第8特定期間	0.0600
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0600
第11特定期間	0.0480

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	10.4
第2特定期間	7.4
第3特定期間	14.9
第4特定期間	3.7
第5特定期間	21.2
第6特定期間	12.7
第7特定期間	27.0
第8特定期間	10.2
第9特定期間	12.3
第10特定期間	16.0
第11特定期間	2.7

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	5,896,410,829	2,353,351,001
第2特定期間	5,645,735,518	3,452,460,001

第3特定期間	11,225,250,708	4,206,957,500
第4特定期間	4,694,840,648	3,281,339,188
第5特定期間	1,946,528,402	4,443,095,448
第6特定期間	1,761,944,537	3,434,549,807
第7特定期間	1,009,981,522	4,741,792,695
第8特定期間	1,854,349,211	5,364,175,903
第9特定期間	940,727,347	3,864,671,819
第10特定期間	416,123,844	1,736,960,572
第11特定期間	624,980,907	1,678,599,877

（注） 当初設定数量は13,124,892,429口です。

（参考）マザーファンド

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

（参考情報）運用実績

● ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

2018年12月28日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	3,692円
純資産総額	38億円

基準価額の騰落率	
期間	ファンド
1カ月間	-11.7%
3カ月間	-14.0%
6カ月間	-9.9%
1年間	-28.3%
3年間	10.7%
5年間	-5.7%
設定来	8.5%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 1,080円 設定来分配金合計額: 7,580円

決算期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
	18年1月	18年2月	18年3月	18年4月	18年5月	18年6月	18年7月	18年8月	18年9月	18年10月	18年11月	18年12月
分配金	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	70円	70円	70円	70円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

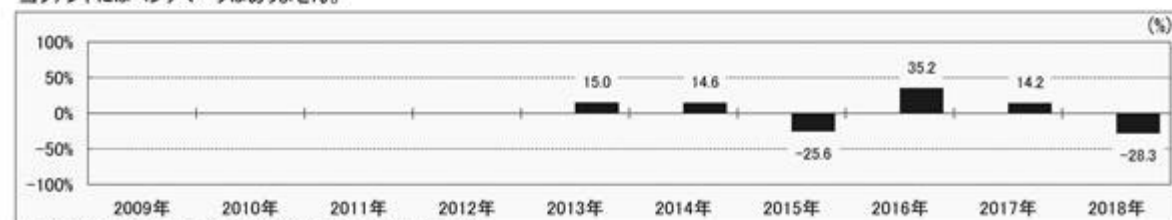
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド(ブラジル・リアル・クラス)	98.7%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0%
合計		98.7%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(6月19日)から年末、2018年は12月28日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 米ドル・コース
（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（2018年12月28日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	3,401,125,444	98.89
内 ケイマン諸島	3,401,125,444	98.89
親投資信託受益証券	399,641	0.01
内 日本	399,641	0.01
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	37,812,313	1.10
純資産総額	3,439,337,398	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（2018年12月28日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 また は 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	CROCI JAPAN STRATEGY FUND USD CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	45,838,505.67	81.45 3,733,876,668	74.19 3,401,125,444	98.89
2	ダイワ・マネースtock・マザー ファンド	日本	親投資 信託受 益証券	398,764	1.0022 399,641	1.0022 399,641	0.01

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	98.89%
親投資信託受益証券	0.01%
合計	98.90%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年12月9日)	16,180,928,911	16,271,460,267	1.0724	1.0784
第2特定期間末 (2014年6月9日)	19,090,843,787	19,201,725,337	1.0330	1.0390
第3特定期間末 (2014年12月8日)	18,773,804,197	18,862,296,541	1.2729	1.2789
第4特定期間末 (2015年6月8日)	18,436,910,962	18,516,361,065	1.3923	1.3983
第5特定期間末 (2015年12月8日)	14,538,149,849	14,608,824,372	1.2342	1.2402
第6特定期間末 (2016年6月8日)	9,710,353,519	9,773,638,296	0.9206	0.9266
第7特定期間末 (2016年12月8日)	9,115,058,754	9,166,765,018	1.0577	1.0637
第8特定期間末 (2017年6月8日)	6,723,309,325	6,762,087,482	1.0403	1.0463
第9特定期間末 (2017年12月8日)	5,721,510,764	5,752,270,437	1.1160	1.1220
2017年12月末日	5,735,316,719	-	1.1385	-
2018年1月末日	5,453,522,665	-	1.1064	-
2月末日	5,193,393,855	-	1.0556	-
3月末日	4,911,957,973	-	1.0033	-
4月末日	5,098,008,596	-	1.0553	-
5月末日	4,470,636,356	-	1.0136	-
第10特定期間末 (2018年6月8日)	4,618,542,814	4,644,994,022	1.0476	1.0536
6月末日	4,190,796,770	-	1.0132	-
7月末日	4,226,873,147	-	1.0412	-
8月末日	4,199,685,850	-	1.0411	-
9月末日	4,306,752,193	-	1.0765	-

10月末日	3,894,206,222	-	0.9642	-
11月末日	3,975,586,641	-	0.9903	-
第11特定期間末 (2018年12月10日)	3,787,791,364	3,811,542,161	0.9569	0.9629
12月末日	3,439,337,398	-	0.8810	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0300
第2特定期間	0.0360
第3特定期間	0.0360
第4特定期間	0.0360
第5特定期間	0.0360
第6特定期間	0.0360
第7特定期間	0.0360
第8特定期間	0.0360
第9特定期間	0.0360
第10特定期間	0.0360
第11特定期間	0.0360

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	10.2
第2特定期間	0.3
第3特定期間	26.7
第4特定期間	12.2
第5特定期間	8.8
第6特定期間	22.5
第7特定期間	18.8
第8特定期間	1.8
第9特定期間	10.7
第10特定期間	2.9
第11特定期間	5.2

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	8,501,201,494	2,083,443,398
第2特定期間	8,325,015,671	4,933,316,751

第3特定期間	2,637,227,375	6,368,761,669
第4特定期間	2,427,637,953	3,934,678,127
第5特定期間	1,191,280,108	2,653,876,794
第6特定期間	496,840,278	1,728,464,475
第7特定期間	349,754,071	2,279,506,270
第8特定期間	276,069,522	2,430,754,062
第9特定期間	87,909,089	1,424,323,166
第10特定期間	78,095,376	796,172,777
第11特定期間	156,754,541	606,823,071

（注） 当初設定数量は8,670,801,322口です。

（参考）マザーファンド

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

（参考情報）運用実績

● ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 米ドル・コース（毎月分配型）

2018年12月28日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	8,810円
純資産総額	34億円

基準価額の騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-10.5%
3カ月間	-16.7%
6カ月間	-9.9%
1年間	-17.0%
3年間	-7.0%
5年間	10.7%
設定来	27.3%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移（10,000口当たり、税引前）

直近1年間分配金合計額： 720円

設定来分配金合計額： 3,900円

決算期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
	18年1月	18年2月	18年3月	18年4月	18年5月	18年6月	18年7月	18年8月	18年9月	18年10月	18年11月	18年12月
分配金	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円	60円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

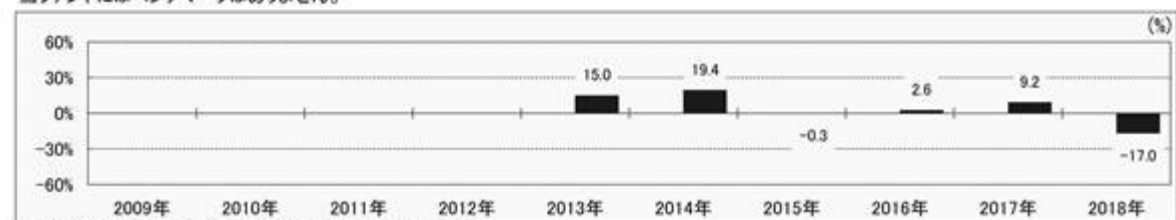
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド(米ドル・クラス)	98.9%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.0%
合計		98.9%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(6月19日)から年末、2018年は12月28日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）－ジャパン・トリプルリターンズ－ 通貨セレクト・コース（毎月分配型）】

(1) 【投資状況】（2018年12月28日現在）

投資状況

投資資産の種類	時価(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	3,751,916,557	99.31
内 ケイマン諸島	3,751,916,557	99.31
親投資信託受益証券	1,998,206	0.05
内 日本	1,998,206	0.05
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)	23,882,614	0.63
純資産総額	3,777,797,377	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

(2) 【投資資産】（2018年12月28日現在）

【投資有価証券の主要銘柄】

イ．主要銘柄の明細

	銘柄名	地域	種類	株数、口数 また は 額面金額	簿価単価 簿価 (円)	評価単価 時価 (円)	投資 比率 (%)
1	CROCI JAPAN STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS	ケイマン 諸島	投資信 託受益 証券	114,426,074.5	36.22 4,144,753,956	32.78 3,751,916,557	99.31
2	ダイワ・マネースtock・マザー ファンド	日本	親投資 信託受 益証券	1,993,820	1.0022 1,998,206	1.0022 1,998,206	0.05

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の時価の比率です。

ロ．投資有価証券の種類別投資比率

投資有価証券の種類	投資比率
投資信託受益証券	99.31%
親投資信託受益証券	0.05%
合計	99.37%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該有価証券の時価の比率です。

ハ．投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第1特定期間末 (2013年12月9日)	51,499,461,043	51,992,891,509	1.0437	1.0537
第2特定期間末 (2014年6月9日)	50,551,193,879	51,056,827,226	0.9998	1.0098
第3特定期間末 (2014年12月8日)	43,604,003,159	44,018,520,897	1.0519	1.0619
第4特定期間末 (2015年6月8日)	34,865,004,218	35,217,852,473	0.9881	0.9981
第5特定期間末 (2015年12月8日)	23,090,472,537	23,392,107,782	0.7655	0.7755
第6特定期間末 (2016年6月8日)	14,365,323,026	14,631,293,117	0.5401	0.5501
第7特定期間末 (2016年12月8日)	12,562,422,397	12,785,650,530	0.5628	0.5728
第8特定期間末 (2017年6月8日)	10,060,067,699	10,245,380,513	0.5429	0.5529
第9特定期間末 (2017年12月8日)	7,841,365,662	7,989,057,602	0.5309	0.5409
2017年12月末日	7,884,190,327	-	0.5457	-
2018年1月末日	7,628,918,101	-	0.5355	-
2月末日	7,044,586,504	-	0.5017	-
3月末日	6,554,043,208	-	0.4679	-
4月末日	6,494,721,091	-	0.4698	-
5月末日	5,812,389,310	-	0.4284	-
第10特定期間末 (2018年6月8日)	5,837,549,825	5,972,879,433	0.4314	0.4414
6月末日	5,476,591,390	-	0.4118	-
7月末日	5,441,772,090	-	0.4164	-
8月末日	4,817,736,280	-	0.3771	-
9月末日	4,900,313,551	-	0.3945	-

10月末日	4,253,887,006	-	0.3500	-
11月末日	4,376,472,320	-	0.3655	-
第11特定期間末 (2018年12月10日)	4,116,083,791	4,199,216,843	0.3466	0.3536
12月末日	3,777,797,377	-	0.3188	-

【分配の推移】

	1口当たり分配金(円)
第1特定期間	0.0500
第2特定期間	0.0600
第3特定期間	0.0600
第4特定期間	0.0600
第5特定期間	0.0600
第6特定期間	0.0600
第7特定期間	0.0600
第8特定期間	0.0600
第9特定期間	0.0600
第10特定期間	0.0600
第11特定期間	0.0480

【収益率の推移】

	収益率(%)
第1特定期間	9.4
第2特定期間	1.5
第3特定期間	11.2
第4特定期間	0.4
第5特定期間	16.5
第6特定期間	21.6
第7特定期間	15.3
第8特定期間	7.1
第9特定期間	8.8
第10特定期間	7.4
第11特定期間	8.5

(4) 【設定及び解約の実績】

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1特定期間	12,694,399,349	3,054,810,384
第2特定期間	6,016,959,255	4,796,671,139

第3特定期間	2,944,626,298	12,056,187,215
第4特定期間	1,260,126,589	7,427,074,854
第5特定期間	647,672,946	5,768,973,928
第6特定期間	552,579,048	4,119,094,417
第7特定期間	564,310,519	4,838,506,377
第8特定期間	469,823,104	4,261,354,936
第9特定期間	467,967,930	4,230,055,345
第10特定期間	379,664,709	1,615,897,898
第11特定期間	430,079,022	2,086,889,599

（注） 当初設定数量は39,703,457,640口です。

（参考）マザーファンド

ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

（参考情報）運用実績

● ダイワ日本株戦略ーα（通貨選択型）ージャパン・トリプルリターンズー 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

2018年12月28日現在

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

基準価額・純資産の推移

基準価額	3,188円
純資産総額	37億円

基準価額の騰落率

期間	ファンド
1カ月間	-11.0%
3カ月間	-14.4%
6カ月間	-12.2%
1年間	-24.9%
3年間	-11.6%
5年間	-23.7%
設定来	-13.6%



※上記の「基準価額の騰落率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
※基準価額の計算において実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています。

分配の推移(10,000口当たり、税引前)

直近1年間分配金合計額: 1,080円 設定来分配金合計額: 6,380円

決算期	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期
	18年1月	18年2月	18年3月	18年4月	18年5月	18年6月	18年7月	18年8月	18年9月	18年10月	18年11月	18年12月
分配金	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	100円	70円	70円	70円	70円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

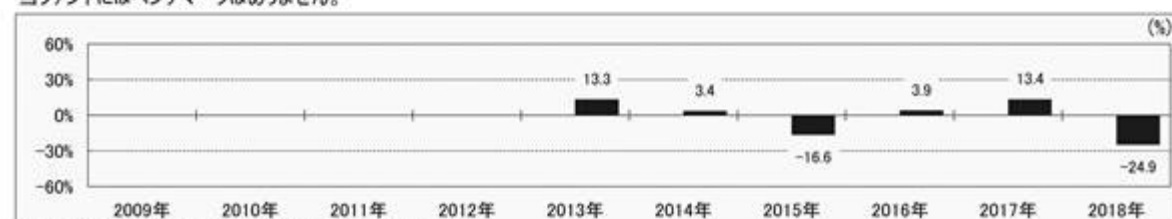
主要な資産の状況

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入上位10ファンド		
運用会社名	ファンド名	比率
ムーア・マネジメント(バミューダ)リミテッド	クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド(通貨セレクト・クラス)	99.3%
大和証券投資信託委託	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	0.1%
合計		99.4%

年間収益率の推移

当ファンドにはベンチマークはありません。



・ファンドの「年間収益率」は、「分配金再投資基準価額」の騰落率です。

・2013年は設定日(6月19日)から年末、2018年は12月28日までの騰落率を表しています。

最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

第2 【管理及び運営】

1 【申込(販売)手続等】

受益権の取得申込者は、販売会社において取引口座を開設のうえ、取得の申込みを行なうものとします。

当ファンドには、収益分配金を税金を差引いた後無手数料で自動的に再投資する「分配金再投資コース」と、収益の分配が行なわれるごとに収益分配金を受益者に支払う「分配金支払いコース」があります。

「分配金再投資コース」を利用する場合、取得申込者は、販売会社と別に定める積立投資約款にしたがい契約（以下「別に定める契約」といいます。）を締結します。

販売会社は、受益権の取得申込者に対し、最低単位を1円単位または1口単位として販売会社が定める単位をもって、取得の申込みに応じることができます。

ただし、販売会社は、次のイ．およびロ．に掲げる日を取得申込受付日とする受益権の取得申込みの受け付けを行いません。

イ．ロンドンの銀行の休業日と同じ日付の日

ロ．前イ．のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日（当ファンドの運営および受益者に与える影響が軽微であるとして委託会社が定める日に限り除きます。）

お買付価額（1万口当たり）は、お買付申込受付日の翌営業日の基準価額です。

お買付時の申込手数料については、販売会社が別に定めるものとします。申込手数料には、消費税等が課されます。なお、「分配金再投資コース」の収益分配金の再投資の際には、申込手数料はかかりません。

委託会社の各営業日の午後3時までに受付けた取得の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したもの）を、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、受益権の取得申込みの受け付けを中止することができます。

取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設された当ファンドの受益権の振替を行なうための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行なわれます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行なうことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行なうものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行ないます。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権にかかる信託を設定した旨の通知を行ないます。

2 【換金(解約)手続等】

委託会社の各営業日の午後3時までに受付けた換金の申込み（当該申込みにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したもの）を、当日の受付分として取扱います。この時刻を過ぎて行なわれる申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

なお、信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の解約請求には制限があります。

< 一部解約 >

受益者は、自己に帰属する受益権について、最低単位を1口単位として販売会社が定める単位をもって、委託会社に一部解約の実行を請求することができます。

ただし、販売会社は、次のイ・およびロ・に掲げる日を一部解約請求受付日とする一部解約の実行の請求の受付けを行いません。

イ・ロンドンの銀行の休業日と同じ日付の日

ロ・前イ・のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

解約価額は、一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額から、当該基準価額に0.3%の率を乗じて得た信託財産留保額を控除した価額とします。

解約価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

解約価額は、販売会社または委託会社に問合わせるにより知ることができます。

基準価額は、販売会社または委託会社に問合わせるにより知ることができます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

・お電話によるお問合わせ先（委託会社）

電話番号（コールセンター） 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

・委託会社のホームページ

アドレス <https://www.daiwa-am.co.jp/>

「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 」を構成する各ファンドの受益者が、当該ファンドの一部解約金の手取金をもって他の構成ファンドの受益権の取得申込みをする場合において、当該他の構成ファンドの受益権の取得申込みの受付けが中止された場合、委託会社は、当該一部解約請求の申込みの受付けを中止することができます。

委託会社は、金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情があるときは、一部解約の実行の請求の受付けを中止することができます。一部解約の実行の請求の受付けが中止された場合には、受益者は当該受付中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回することができます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該振替受益権の解約価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして、上記に準じて算出した価額とします。

一部解約金は、販売会社の営業所等において、原則として一部解約の実行の請求受付日から起算して6営業日目から受益者に支払います。

受託会社は、一部解約金について、受益者への支払開始日までに、その全額を委託会社の指定する預金口座等に払込みます。受託会社は、委託会社の指定する預金口座等の一部解約金を払込んだ後は、受益者に対する支払いにつき、その責に任じません。

< 信託財産留保額について >

当ファンドにおいては、信託終了前の解約の際に1万口当たり一部解約の実行の請求受付日の翌営業日の基準価額の0.3%を信託財産留保額としてご負担いただきます。

一部解約に対応して有価証券等の取引を行なう場合には、売買委託手数料等のコストが発生するほか、組入有価証券等の市場価格が変動するリスクを信託財産が負うことになります。

信託財産留保額は、こうしたコスト等の負担について、受益権を継続して保有される方との公平性に資する目的で導入されているもので、解約の際に控除され、信託財産に繰入れられます。

一部解約の実行の請求を行なう受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかる信託契約の一部解約を委託会社が行なうのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行なうものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行なわれます。

3 【資産管理等の概要】

(1) 【資産の評価】

基準価額とは、信託財産の純資産総額を計算日における受益権口数で除した1万口当たりの価額をいいます。

純資産総額とは、信託財産に属する資産を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価（注1、注2）により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額をいいます。

（注1）当ファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・組入外国投資信託の受益証券：原則として計算時において知り得る直近の日の基準価額で評価します。
- ・マザーファンドの受益証券：計算日の基準価額で評価します。

（注2）マザーファンドの主要な投資対象資産の評価方法の概要

- ・本邦通貨表示の公社債：原則として、次に掲げるいずれかの価額で評価します。
 1. 日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）
 2. 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く。）
 3. 価格情報会社の提供する価額

基準価額は、原則として、委託会社の各営業日に計算されます。

基準価額は、販売会社または委託会社に問い合わせることにより知ることができます。また、委託会社のホームページでご覧になることもできます。

- ・お電話によるお問い合わせ先（委託会社）

電話番号（コールセンター） 0120-106212

（営業日の9:00～17:00）

- ・委託会社のホームページ

アドレス <https://www.daiwa-am.co.jp/>

(2) 【保管】

該当事項はありません。

(3) 【信託期間】

2013年6月19日から2023年6月8日までとします。ただし、(5) により信託契約を解約し、信託を終了させることがあります。

委託会社は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長することができます。

(4) 【計算期間】

毎月9日から翌月8日までとします。ただし、第1計算期間は、2013年6月19日から2013年8月8日までとします。

上記にかかわらず、上記により各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日の場合には、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日から次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日には適用しません。

(5) 【その他】

信託の終了

1. 委託会社は、受益権の口数が30億口を下ることとなった場合もしくは信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
2. 委託会社は、当ファンドが主要投資対象とする組入外国投資信託が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
3. 委託会社は、前1.の事項について、書面による決議（以下「書面決議」といいます。）を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託契約にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発します。
4. 前3.の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本4.において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、信託契約にかかる知れている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
5. 前3.の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
6. 前3.から前5.までの規定は、前2.の規定に基づいて信託契約を解約するとき、あるいは、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前3.から前5.までの手続きを行なうことが困難な場合も同じとします。
7. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。

8. 委託会社が監督官庁より登録の取消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、の書面決議で否決された場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
9. 受託会社が辞任した場合または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託約款の変更等

1. 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、信託約款を変更することまたは当ファンドと他のファンドとの併合（投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じ。）を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届出ます。なお、信託約款は本の1. から7. までに定める以外の方法によって変更することができないものとします。
2. 委託会社は、前1. の事項（前1. の変更事項にあっては、その内容が重大なものに該当する場合に限り、前1. の併合事項にあっては、その併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除きます。以下「重大な信託約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行います。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な信託約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、信託約款にかかる知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
3. 前2. の書面決議において、受益者（委託会社および当ファンドの信託財産に当ファンドの受益権が属するときの当該受益権にかかる受益者としての受託会社を除きます。以下本3. において同じ。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、信託約款にかかる知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
4. 前2. の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行ないます。
5. 書面決議の効力は、当ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。
6. 前2. から前5. までの規定は、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
7. 前1. から前6. までの規定にかかわらず、当ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行なうことはできません。
8. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、前1. から前7. までの規定にしたがいます。

反対受益者の受益権買取請求の不適用

当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権買取請求の規定の適用を受けません。

運用報告書

1. 委託会社は、運用経過のほか信託財産の内容、有価証券売買状況、費用明細などのうち重要な事項を記載した交付運用報告書（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項に定める運用報告

書）を毎年6月および12月の計算期末に作成し、信託財産にかかる知れている受益者に対して交付します。また、電子交付を選択された場合には、所定の方法により交付します。

2. 委託会社は、運用報告書（全体版）（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書）を作成し、委託会社のホームページに掲載します。

・委託会社のホームページ

アドレス <https://www.daiwa-am.co.jp/>

3. 前2.の規定にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。

公告

1. 委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

2. 前1.の電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

関係法人との契約の更改

委託会社と販売会社との間で締結される受益権の募集・販売の取扱い等に関する契約は、期間満了の1か月（または3か月）前までに、委託会社および販売会社いずれからも何ら意思の表示のないときは、自動的に1年間更新されるものとし、自動延長後の取扱いについてもこれと同様とします。

4 【受益者の権利等】

信託契約締結当初および追加信託当初の受益者は、委託会社の指定する受益権取得申込者とし、分割された受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益者の有する主な権利の内容、その行使の方法等は、次のとおりです。

収益分配金および償還金にかかる請求権

受益者は、収益分配金（分配金額は、委託会社が決定します。）および償還金（信託終了時における信託財産の純資産総額を受益権口数で除した額をいいます。以下同じ。）を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、原則として決算日から起算して5営業日までに支払います。

上記にかかわらず、別に定める契約に基づいて収益分配金を再投資する受益者については、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に収益分配金が再投資されます。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

償還金は、信託終了日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（信託終了日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該信託終了日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権に

については原則として取得申込者とします。)に、原則として信託終了日から起算して5営業日までに支払います。

収益分配金および償還金の支払いは、販売会社の営業所等において行なうものとします。

受益者が、収益分配金については支払開始日から5年間その支払いを請求しないときならびに信託終了による償還金については支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

換金請求権

受益者は、保有する受益権を換金する権利を有します。権利行使の方法等については、「2 換金（解約）手続等」をご参照下さい。

第3 【ファンドの経理状況】

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース
（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成30年6月9日から平成30年12月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	78,977,876	-
コール・ローン	-	81,835,129
投資信託受益証券	3,702,761,698	3,154,964,686
親投資信託受益証券	399,840	399,641
流動資産合計	3,782,139,414	3,237,199,456
資産合計	3,782,139,414	3,237,199,456
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	24,720,161	24,018,230
未払解約金	21,691,117	23,724,117
未払受託者報酬	86,273	77,869
未払委託者報酬	4,590,441	4,142,962
その他未払費用	165,664	145,489
流動負債合計	51,253,656	52,108,667
負債合計	51,253,656	52,108,667
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 4,120,026,839	¹ 4,003,038,435
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 389,141,081	² 817,947,646
（分配準備積立金）	405,692,367	386,075,389
元本等合計	3,730,885,758	3,185,090,789
純資産合計	3,730,885,758	3,185,090,789
負債純資産合計	3,782,139,414	3,237,199,456

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期 自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
営業収益		
受取配当金	210,581,238	180,728,375
受取利息	2	28
有価証券売買等損益	238,995,842	458,525,586
営業収益合計	28,414,602	277,797,183
営業費用		
支払利息	12,767	12,805
受託者報酬	539,445	479,741
委託者報酬	28,701,633	25,524,643
その他費用	167,382	153,275
営業費用合計	29,421,227	26,170,464
営業損失（ ）	57,835,829	303,967,647
経常損失（ ）	57,835,829	303,967,647
当期純損失（ ）	57,835,829	303,967,647
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	1,255,983	7,041
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	205,703,054	389,141,081
剰余金増加額又は欠損金減少額	33,218,437	47,956,080
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	33,218,437	47,956,080
剰余金減少額又は欠損金増加額	4,025,907	26,154,477
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	4,025,907	26,154,477
分配金	1 153,538,745	1 146,647,562
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	389,141,081	817,947,646

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成30年6月9日	至 平成30年12月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日 平成30年12月8日及びその翌日が休日のため、当特定期間末日を平成30年12月10日としております。このため、当特定期間は185日となっております。	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
1. 1 期首元本額	4,503,916,209円	4,120,026,839円
期中追加設定元本額	62,069,227円	225,822,182円
期中一部解約元本額	445,958,597円	342,810,586円

2.	特定期間末日における受益権の総数	4,120,026,839口	4,003,038,435口
3.	2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は389,141,081円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は817,947,646円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	前 期	当 期
	自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1 分配金の計算過程	（自平成29年12月9日 至平成30年1月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（34,923,703円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（171,288,189円）及び分配準備積立金（406,964,091円）より分配対象額は613,175,983円（1万口当たり1,378.14円）であり、うち26,695,737円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年6月9日 至平成30年7月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（28,561,770円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（162,307,686円）及び分配準備積立金（399,761,806円）より分配対象額は590,631,262円（1万口当たり1,453.07円）であり、うち24,388,266円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年1月10日 至平成30年2月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（30,924,345円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（170,564,617円）及び分配準備積立金（406,669,807円）より分配対象額は608,158,769円（1万口当たり1,389.04円）であり、うち26,269,642円（1万口当たり60円）を分配金額としております。 （自平成30年2月9日 至平成30年3月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（30,155,627円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（168,742,970円）及び分配準備積立金（405,282,939円）より分配対象額は604,181,536円（1万口当たり1,398.87円）であり、うち25,914,457円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年7月10日 至平成30年8月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（30,185,822円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（179,391,850円）及び分配準備積立金（395,928,479円）より分配対象額は605,506,151円（1万口当たり1,468.53円）であり、うち24,739,298円（1万口当たり60円）を分配金額としております。 （自平成30年8月9日 至平成30年9月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（25,129,149円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（184,953,097円）及び分配準備積立金（396,420,955円）より分配対象額は606,503,201円（1万口当たり1,469.50円）であり、うち24,763,632円（1万口当たり60円）を分配金額としております。
--	---

（自平成30年3月9日 至平成30年4月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（29,014,947円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（164,448,753円）及び分配準備積立金（395,521,641円）より分配対象額は588,985,341円（1万口当たり1,408.28円）であり、うち25,093,789円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年4月10日 至平成30年5月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（37,950,386円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（163,378,837円）及び分配準備積立金（394,934,441円）より分配対象額は596,263,664円（1万口当たり1,439.96円）であり、うち24,844,959円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年9月11日 至平成30年10月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（28,257,704円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（182,959,312円）及び分配準備積立金（389,528,307円）より分配対象額は600,745,323円（1万口当たり1,479.08円）であり、うち24,369,621円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年10月10日 至平成30年11月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（25,047,453円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（183,978,563円）及び分配準備積立金（392,404,418円）より分配対象額は601,430,434円（1万口当たり1,480.84円）であり、うち24,368,515円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

	（自平成30年5月9日 至平成30年6月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（25,847,660円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（164,020,729円）及び分配準備積立金（404,564,868円）より分配対象額は594,433,257円（1万口当たり1,442.79円）であり、うち24,720,161円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年11月9日 至平成30年12月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（23,167,649円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（181,841,882円）及び分配準備積立金（386,925,970円）より分配対象額は591,935,501円（1万口当たり1,478.72円）であり、うち24,018,230円（1万口当たり60円）を分配金額としております。
--	--	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	17,173,240	79,435,629
親投資信託受益証券	40	40
合計	17,173,280	79,435,669

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.9055円 (9,055円)	0.7957円 (7,957円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI JAPAN STRATEGY FUND JPY CLASS	42,911,845.252	3,154,964,686	
投資信託受益証券 合計			3,154,964,686	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	398,764	399,641	
親投資信託受益証券 合計			399,641	
合計			3,155,364,327	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（日本円・クラス）」の
状況

以下に記載した同ファンドの情報は、会計監査人により監査を受けた財務諸表を委託会社で抜粋・翻訳
したものであります。

以下に記載した情報は監査の対象外であります。

（日本円建て）

貸借対照表
2018年2月28日

資産

投資資産の評価額（簿価 /27,703,832,800）	/	24,542,999,000
現金および現金同等物		58,188,848
未収：		
スワップ契約に係るプレミアム		186,359,919
資産合計		24,787,547,767

負債

スワップ契約による評価損		143,212,130
未払：		
終了済みスワップ契約		584,319,732
購入済みの投資		213,768,400
専門家報酬		13,519,471
管理会社報酬		10,518,845
通貨投資アドバイザー報酬		2,869,948
運用会社報酬		2,073,948
名義書換代理人報酬		1,624,078
受託会社報酬		65,624
その他負債		176,534
負債合計		972,148,710

純資産

	/	23,815,399,057
豪ドル・クラス	/	1,057,073,385
ブラジル・リアル・クラス		6,926,172,673
日本円・クラス		3,998,082,658
通貨セレクト・クラス		6,818,736,833
米ドル・クラス		5,015,333,508
	/	23,815,399,057

発行済み受益証券口数

豪ドル・クラス		14,347,239
ブラジル・リアル・クラス		125,660,566
日本円・クラス		46,646,549
通貨セレクト・クラス		142,798,545
米ドル・クラス		55,571,292

受益証券1口当り純資産額

豪ドル・クラス	/	73.68
ブラジル・リアル・クラス	/	55.12
日本円・クラス	/	85.71
通貨セレクト・クラス	/	47.75
米ドル・クラス	/	90.25

損益計算書

2018年2月28日に終了した年度

投資収益	
受取利息	/ 28,064
投資収益合計	<u>28,064</u>
費用	
運用会社報酬	33,788,803
管理会社報酬	22,629,241
通貨投資アドバイザー報酬	13,905,273
専門家報酬	9,254,886
名義書換代理人報酬	3,521,697
受託会社報酬	790,078
その他費用	1,535,511
費用合計	<u>85,425,489</u>
投資純損失	<u>(85,397,425)</u>
実現益（損）および評価益（損）：	
実現益（損）の内訳：	
証券投資	1,565,609,953
スワップ契約	(623,081,989)
純実現利益	<u>942,527,964</u>
評価益の純変動の内訳：	
証券投資	1,313,658,300
スワップ契約	357,269,588
評価益の純変動	<u>1,670,927,888</u>
純実現益および評価益の純変動	<u>2,613,455,852</u>
運用による純資産の純増	<u>/ 2,528,058,427</u>

投資明細表

2018年2月28日

投資資産の明細	受益証券口数	純資産に 占める割合	評価額
CROCI Japan Covered Call Strategy* - トータル・リターン・スワップ	279,550,000	103.06%	/ 24,542,999,000
ストラクチャード商品合計(簿価 /27,703,832,800)			<u>24,542,999,000</u>
投資資産合計(簿価 /27,703,832,800)		103.06%	<u>/ 24,542,999,000</u>

* 当ファンドはDeutsche Bank A.G., ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通してCROCI Japan Covered Call Strategyと同様のエクスポージャーを有しています。

豪ドル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益/（損）	純資産に占める割合
AUD	Deutsche Bank A.G.	12,799,976	2018/3/29	JPY	(1,071,624,705)	/ (9,741,895)	(0.04%)

ブラジル・レアル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益/（損）	純資産に占める割合
BRL	Deutsche Bank A.G.	215,638,636	2018/3/29	JPY	(7,091,727,014)	/ (48,395,225)	(0.20%)

通貨セレクト・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益/（損）	純資産に占める割合
CNY	Deutsche Bank A.G.	62,976,409	2018/3/30	JPY	(1,064,423,645)	/ (7,621,130)	(0.03%)
IDR	Deutsche Bank A.G.	142,908,925,371	2018/3/29	JPY	(1,119,009,472)	(16,145,701)	(0.07%)
INR	Deutsche Bank A.G.	714,980,473	2018/3/28	JPY	(1,173,595,301)	(10,654,817)	(0.05%)
MXN	Deutsche Bank A.G.	196,442,594	2018/3/28	JPY	(1,119,009,473)	(14,484,351)	(0.06%)
RUB	Deutsche Bank A.G.	588,339,933	2018/3/30	JPY	(1,119,009,473)	(10,169,790)	(0.04%)
TRY	Deutsche Bank A.G.	43,931,012	2018/3/30	JPY	(1,228,181,129)	(9,386,766)	(0.04%)
合計						/ (68,462,555)	(0.29%)

米ドル・クラス外国為替スワップ契約

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価益/（損）	純資産に占める割合
USD	Deutsche Bank A.G.	48,414,239	2018/3/30	JPY	(5,169,604,700)	/ (16,612,455)	(0.07%)

用語集：

AUD	豪ドル
BRL	ブラジル・レアル
CNY	人民元
IDR	インドネシア・ルピア
INR	インド・ルピー
MXN	メキシコ・ペソ
RUB	ロシア・ルーブル
TRY	トルコ・リラ
USD	米ドル

「ダイワ・マネーストック・マザーファンド」の状況
以下に記載した情報は監査の対象外であります。

貸借対照表

	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
	金 額（円）	金 額（円）
資産の部		

流動資産		
金銭信託	44,860,811,355	-
コール・ローン	-	41,081,960,031
流動資産合計	44,860,811,355	41,081,960,031
資産合計	44,860,811,355	41,081,960,031
負債の部		
流動負債		
未払解約金	100,000,000	20,000,000
その他未払費用	4,023,080	2,652,366
流動負債合計	104,023,080	22,652,366
負債合計	104,023,080	22,652,366
純資産の部		
元本等		
元本	1 44,636,456,955	40,969,233,796
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	120,331,320	90,073,869
元本等合計	44,756,788,275	41,059,307,665
純資産合計	44,756,788,275	41,059,307,665
負債純資産合計	44,860,811,355	41,081,960,031

注記表

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

区 分	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券 個別法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（但し、売気配相場は使用しない）、価格情報会社の提供する価額又は日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）等で評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。

（貸借対照表に関する注記）

区 分	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
1. 1 期首	平成29年12月9日	平成30年6月9日
期首元本額	30,289,227,165円	44,636,456,955円
期中追加設定元本額	57,070,797,118円	22,208,694,695円
期中一部解約元本額	42,723,567,328円	25,875,917,854円
期末元本額の内訳		
ファンド名		
ダイワ米国担保付貸付債権 ファンド（為替ヘッジあり）	3,021,993円	3,021,993円
ダイワ米国担保付貸付債権 ファンド（為替ヘッジなし）	1,018,149円	1,018,149円
ダイワ米国バンクローン・ ファンド（為替ヘッジあり） 2014-07	9,963円	9,963円
ダイワ米国バンクローン・ ファンド（為替ヘッジあり） 2014-09	9,963円	9,963円
ダイワ米国バンクローン・ ファンド（為替ヘッジあり） 2014-11	9,962円	9,962円
ロボット・テクノロジー関連 株ファンド - ロボテック -	947,268円	947,268円
ダイワ/ミレーアセット・イ ンド株式ファンド - インド の匠 -	29,910,270円	29,910,270円
ワールド・フィンテック革命 ファンド（為替ヘッジあり）	- 円	998円
ワールド・フィンテック革命 ファンド（為替ヘッジなし）	- 円	998円
新興国ソブリン・豪ドルファ ンド（毎月決算型）	999円	999円
新興国ソブリン・ブラジルレ アルファンド（毎月決算型）	999円	999円
新興国ソブリン・ファンド （為替ヘッジあり/毎月決算 型）	999円	999円
US短期ハイ・イールド社債 ファンド（為替ヘッジあり/ 毎月決算型）	102,434円	102,434円

U S 短期高利回り社債ファン ド（為替ヘッジあり / 年1回 決算型）	1,994円	1,994円
ロボット・テクノロジー関連 株ファンド - ロボテック - （為替ヘッジあり）	39,849円	39,849円
ロボット・テクノロジー関連 株ファンド（年1回決算型） - ロボテック（年1回） - （為替ヘッジあり）	3,985円	3,985円
iFreeレバレッジ S&P500	- 円	9,976,058円
ダイワ上場投信 - 日経平均レ バレッジ・インデックス	6,310,148,974円	6,480,317,774円
ダイワ上場投信 - 日経平均ダ ブルインバース・インデック ス	4,177,306,443円	3,588,745,910円
ダイワ上場投信 - TOPIXレバ レッジ（2倍）指数	1,654,054,649円	1,873,252,277円
ダイワ上場投信 - TOPIXダブ ルインバース（-2倍）指数	642,415,250円	602,505,046円
ダイワ上場投信 - 日経平均イ ンバース・インデックス	4,307,054,429円	3,957,907,355円
ダイワ上場投信 - TOPIXイン バース（-1倍）指数	2,966,758,220円	3,685,167,742円
ダイワ上場投信 - J P X 日経 400レバレッジ・インデック ス	393,354,864円	323,527,433円
ダイワ上場投信 - J P X 日経 400インバース・インデック ス	2,308,214,689円	2,008,932,965円
ダイワ上場投信 - J P X 日経 400ダブルインバース・イン デックス	185,232,485円	208,181,200円
ダイワ米国投資法人債ファン ド（為替ヘッジあり）2016- 07	997円	997円
ダイワ米国投資法人債ファン ド（部分為替ヘッジあり） 2016-07	997円	997円
ダイワ米国投資法人債ファン ド（為替ヘッジあり）2017- 06	997円	997円

ダイワ米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり） 2017-06	997円	997円
ダイワ米国投資法人債ファンド（為替ヘッジあり）2016-10	997円	997円
ダイワ米国投資法人債ファンド（部分為替ヘッジあり） 2016-10	997円	997円
ダイワ日本株式ベア・ファンド（適格機関投資家専用）	7,150,666,839円	3,619,070,901円
低リスク型アロケーション ファンド（金利トレンド判断 付き／適格機関投資家専用）	199,401,795円	199,401,795円
ダイワ日本国債15-20年ラ ダー型ファンド・マネーポー トフォリオ - SLトレード -	39,456,741円	56,086,003円
ダイワ／モルガン・スタン レー新興4カ国不動産関連 ファンド - 成長の槌音（つち おと） -	5,020,480円	5,020,480円
ダイワ／ハリス世界厳選株 ファンド・マネー・ポート フォリオ	126,420,778円	168,192,739円
ダイワ・アセアン内需関連株 ファンド・マネー・ポート フォリオ	135,732,892円	151,817,656円
低リスク型アロケーション ファンド（適格機関投資家専 用）	13,958,125,625円	13,958,125,625円
通貨選択型ダイワ／ミレーア セット・グローバル・グレー トコンシューマー株式ファン ド 豪ドル・コース（毎月 分配型）	1,193,491円	595,106円
通貨選択型ダイワ／ミレーア セット・グローバル・グレー トコンシューマー株式ファン ド ブラジル・リアル・ コース（毎月分配型）	2,981,988円	987,373円

通貨選択型ダイワノミレーア セット・グローバル・グレート コンシューマー株式ファン ド 通貨セレクト・コース （毎月分配型）	1,990,542円	494,581円
ダイワUS短期ハイ・イール ド社債ファンド（為替ヘッジ あり／年1回決算型）	9,957円	9,957円
ダイワ米国バンクローン・ オープン（為替ヘッジあり）	997円	997円
ダイワ米国バンクローン・ オープン（為替ヘッジなし）	997円	997円
ダイワ新グローバル・ハイブ リッド証券ファンド（為替 ヘッジあり）	997円	997円
ダイワ新グローバル・ハイブ リッド証券ファンド（為替 ヘッジなし）	997円	997円
ダイワノミレーアセット亜細 亜株式ファンド	9,958,176円	9,958,176円
<奇数月定額払出型>ダイワ 先進国リートα 為替ヘッジ あり	49,806円	49,806円
<奇数月定額払出型>ダイワ 先進国リートα 為替ヘッジ なし	49,806円	49,806円
通貨選択型ダイワノミレーア セット・グローバル好配当株 α（毎月分配型）米ドル・ コース	1,989,053円	1,989,053円
通貨選択型ダイワノミレーア セット・グローバル好配当株 α（毎月分配型）ブラジル・ リアル・コース	2,978,118円	2,978,118円
通貨選択型ダイワノミレーア セット・グローバル好配当株 α（毎月分配型）通貨セレクト ・コース	1,691,241円	1,691,241円
ロボット・テクノロジー関連 株ファンド（年1回決算型） - ロボテック（年1回） -	100,588円	100,588円

ダイワ先進国リートα 為替 ヘッジあり（毎月分配型）	399,083円	399,083円
ダイワ先進国リートα 為替 ヘッジなし（毎月分配型）	99,771円	99,771円
通貨選択型ダイワ先進国リー トα 円ヘッジコース（毎月 分配型）	399,083円	399,083円
通貨選択型ダイワ先進国リー トα 通貨セレクトコース （毎月分配型）	99,771円	99,771円
ダイワ/ミレーアセット・グ ローバル・グレートコン シューマー株式ファンド（為 替ヘッジあり）	1,091,429円	1,091,429円
ダイワ/ミレーアセット・グ ローバル・グレートコン シューマー株式ファンド（為 替ヘッジなし）	315,004円	315,004円
ダイワ/ミレーアセット・ア ジア・セクターリーダー株 ファンド	10,009,811円	10,009,811円
ダイワ日本株ストラテジーα （通貨選択型） - ジャパ ン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配 型）	398,764円	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα （通貨選択型） - ジャパ ン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配 型）	99,691円	99,691円
ダイワ日本株ストラテジーα （通貨選択型） - ジャパ ン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース （毎月分配型）	398,764円	398,764円
ダイワ日本株ストラテジーα （通貨選択型） - ジャパ ン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配 型）	398,764円	398,764円

ダイワ日本株ストラテジー α （通貨選択型） - ジャパ ン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月 分配型）	1,993,820円	1,993,820円
通貨選択型ダイワ米国厳選株 ファンド - イーグルアイ - 予想分配金提示型 日本 円・コース	300,273円	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株 ファンド - イーグルアイ - 予想分配金提示型 豪ド ル・コース	200,861円	200,861円
通貨選択型ダイワ米国厳選株 ファンド - イーグルアイ - 予想分配金提示型 ブラジ ル・リアル・コース	300,273円	300,273円
通貨選択型ダイワ米国厳選株 ファンド - イーグルアイ - 予想分配金提示型 米ド ル・コース	1,999,177円	1,999,177円
通貨選択型ダイワ米国厳選株 ファンド - イーグルアイ - 予想分配金提示型 通貨セ レクト・コース	505,900円	505,900円
計	44,636,456,955円	40,969,233,796円
2. 期末日における受益権の総数	44,636,456,955口	40,969,233,796口

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。 これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。

3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。
4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。

金融商品の時価等に関する事項

区 分	平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額	1.0027円	1.0022円
（1万口当たり純資産額）	（10,027円）	（10,022円）

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第 3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース
（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成30年6月9日から平成30年12月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	23,091,694	-
コール・ローン	-	21,855,854
投資信託受益証券	955,746,700	710,709,704
親投資信託受益証券	99,960	99,910
流動資産合計	978,938,354	732,665,468
資産合計	978,938,354	732,665,468
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	10,557,762	9,536,847
未払解約金	933,100	1,765,390
未払受託者報酬	21,969	17,948
未払委託者報酬	1,168,912	955,011
その他未払費用	44,574	35,348
流動負債合計	12,726,317	12,310,544
負債合計	12,726,317	12,310,544
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 1,319,720,293	¹ 1,192,105,969
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 353,508,256	² 471,751,045
（分配準備積立金）	98,921,452	73,957,327
元本等合計	966,212,037	720,354,924
純資産合計	966,212,037	720,354,924
負債純資産合計	978,938,354	732,665,468

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期 自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
営業収益		
受取配当金	65,157,576	52,111,283
受取利息	1	7
有価証券売買等損益	82,562,031	147,148,329
営業収益合計	17,404,454	95,037,039
営業費用		
支払利息	4,046	2,793
受託者報酬	142,882	115,498
委託者報酬	7,603,436	6,146,814
その他費用	44,943	37,564
営業費用合計	7,795,307	6,302,669
営業損失（ ）	25,199,761	101,339,708
経常損失（ ）	25,199,761	101,339,708
当期純損失（ ）	25,199,761	101,339,708
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	4,592,649	727,530
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	301,252,871	353,508,256
剰余金増加額又は欠損金減少額	46,155,087	56,669,023
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	46,155,087	56,669,023
剰余金減少額又は欠損金増加額	12,734,277	14,135,091
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	12,734,277	14,135,091
分配金	1 65,069,083	1 60,164,543
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	353,508,256	471,751,045

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期	
	自 平成30年6月9日	至 平成30年12月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。	
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。	
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日 平成30年12月8日及びその翌日が休日のため、当特定期間末日を平成30年12月10日としております。このため、当特定期間は185日となっております。	

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
1. 1 期首元本額	1,487,360,447円	1,319,720,293円
期中追加設定元本額	50,627,292円	43,428,382円
期中一部解約元本額	218,267,446円	171,042,706円

2.	特定期間末日における受益権の総数	1,319,720,293口	1,192,105,969口
3.	2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は353,508,256円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は471,751,045円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	前 期	当 期
	自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1 分配金の計算過程	（自平成29年12月9日 至平成30年1月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（11,321,783円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（104,970,938円）及び分配準備積立金（119,910,116円）より分配対象額は236,202,837円（1万口当たり1,617.24円）であり、うち11,684,217円（1万口当たり80円）を分配金額としております。	（自平成30年6月9日 至平成30年7月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（8,946,591円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（97,906,231円）及び分配準備積立金（97,546,070円）より分配対象額は204,398,892円（1万口当たり1,565.20円）であり、うち10,447,198円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

（自平成30年1月10日 至平成30年2月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（10,423,210円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（103,200,718円）及び分配準備積立金（116,670,670円）より分配対象額は230,294,598円（1万口当たり1,610.16円）であり、うち11,442,059円（1万口当たり80円）を分配金額としております。	（自平成30年7月10日 至平成30年8月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（9,025,000円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（96,633,665円）及び分配準備積立金（93,986,717円）より分配対象額は199,645,382円（1万口当たり1,555.52円）であり、うち10,267,690円（1万口当たり80円）を分配金額としております。
（自平成30年2月9日 至平成30年3月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（9,500,914円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（94,620,244円）及び分配準備積立金（105,384,685円）より分配対象額は209,505,843円（1万口当たり1,602.85円）であり、うち10,456,641円（1万口当たり80円）を分配金額としております。	（自平成30年8月9日 至平成30年9月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（7,574,796円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（94,750,577円）及び分配準備積立金（90,018,478円）より分配対象額は192,343,851円（1万口当たり1,536.02円）であり、うち10,017,757円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

（自平成30年3月9日 至平成30年4月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（8,322,913円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（94,876,532円）及び分配準備積立金（103,710,116円）より分配対象額は206,909,561円（1万口当たり1,586.75円）であり、うち10,431,856円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

（自平成30年4月10日 至平成30年5月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（10,883,073円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（96,952,975円）及び分配準備積立金（100,849,687円）より分配対象額は208,685,735円（1万口当たり1,590.51円）であり、うち10,496,548円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

（自平成30年9月11日 至平成30年10月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（7,972,592円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（95,374,991円）及び分配準備積立金（86,293,115円）より分配対象額は189,640,698円（1万口当たり1,520.28円）であり、うち9,979,263円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

（自平成30年10月10日 至平成30年11月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（7,408,370円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（95,231,453円）及び分配準備積立金（83,296,891円）より分配対象額は185,936,714円（1万口当たり1,500.13円）であり、うち9,915,788円（1万口当たり80円）を分配金額としております。

	（自平成30年5月9日 至平成30年6月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（8,706,347円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（98,598,457円）及び分配準備積立金（100,772,867円）より分配対象額は208,077,671円（1万口当たり1,576.68円）であり、うち10,557,762円（1万口当たり80円）を分配金額としております。	（自平成30年11月9日 至平成30年12月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（6,184,126円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（91,988,098円）及び分配準備積立金（77,310,048円）より分配対象額は175,482,272円（1万口当たり1,472.04円）であり、うち9,536,847円（1万口当たり80円）を分配金額としております。
--	--	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	12,900,661	29,870,718
親投資信託受益証券	10	10
合計	12,900,651	29,870,728

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.7321円 (7,321円)	0.6043円 (6,043円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI JAPAN STRATEGY FUND AUD CLASS	11,635,337.814	710,709,704	
投資信託受益証券 合計			710,709,704	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	99,691	99,910	
親投資信託受益証券 合計			99,910	
合計			710,809,614	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（豪ドル・クラス）」
の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・
コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・
コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・レアル・コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成30年6月9日から平成30年12月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	201,043,766	-
コール・ローン	-	170,906,932
投資信託受益証券	5,355,712,591	4,221,324,013
親投資信託受益証券	399,840	399,641
流動資産合計	5,557,156,197	4,392,630,586
資産合計	5,557,156,197	4,392,630,586
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	116,374,310	74,086,684
未払解約金	5,658,007	19,925,839
未払受託者報酬	135,370	107,880
未払委託者報酬	7,202,041	5,739,645
その他未払費用	290,979	208,191
流動負債合計	129,660,707	100,068,239
負債合計	129,660,707	100,068,239
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 11,637,431,061	¹ 10,583,812,091
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 6,209,935,571	² 6,291,249,744
（分配準備積立金）	315,026,675	133,610,380
元本等合計	5,427,495,490	4,292,562,347
純資産合計	5,427,495,490	4,292,562,347
負債純資産合計	5,557,156,197	4,392,630,586

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期 自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
営業収益		
受取配当金	595,979,750	417,257,194
受取利息	6	45
有価証券売買等損益	1,720,830,285	521,645,971
営業収益合計	1,124,850,529	104,388,732
営業費用		
支払利息	27,227	18,327
受託者報酬	945,540	681,200
委託者報酬	50,304,856	36,242,566
その他費用	293,792	224,117
営業費用合計	51,571,415	37,166,210
営業損失（ ）	1,176,421,944	141,554,942
経常損失（ ）	1,176,421,944	141,554,942
当期純損失（ ）	1,176,421,944	141,554,942
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	9,267,840	884,549
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	4,836,574,843	6,209,935,571
剰余金増加額又は欠損金減少額	699,241,360	931,764,615
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	699,241,360	931,764,615
剰余金減少額又は欠損金増加額	182,034,869	337,513,714
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	182,034,869	337,513,714
分配金	1,723,413,115	1,533,125,583
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	6,209,935,571	6,291,249,744

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期
	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日 平成30年12月8日及びその翌日が休日のため、当特定期間末日を平成30年12月10日としております。このため、当特定期間は185日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期	当 期
	平成30年6月8日現在	平成30年12月10日現在
1. 1 期首元本額	12,958,267,789円	11,637,431,061円
期中追加設定元本額	416,123,844円	624,980,907円
期中一部解約元本額	1,736,960,572円	1,678,599,877円

2.	特定期間末日における受益権の総数	11,637,431,061口	10,583,812,091口
3.	2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は6,209,935,571円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は6,291,249,744円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	前 期	当 期
	自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1 分配金の計算過程	（自平成29年12月9日 至平成30年1月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（107,205,853円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,284,528,123円）及び分配準備積立金（546,154,460円）より分配対象額は1,937,888,436円（1万口当たり1,523.40円）であり、うち127,208,342円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年6月9日 至平成30年7月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（73,366,422円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,188,280,979円）及び分配準備積立金（305,041,242円）より分配対象額は1,566,688,643円（1万口当たり1,355.08円）であり、うち115,615,855円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年1月10日 至平成30年2月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（97,357,580円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,228,056,264円）及び分配準備積立金（499,622,971円）より分配対象額は1,825,036,815円（1万口当たり1,503.67円）であり、うち121,372,095円（1万口当たり100円）を分配金額としております。 （自平成30年2月9日 至平成30年3月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（94,145,443円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,225,703,049円）及び分配準備積立金（471,691,593円）より分配対象額は1,791,540,085円（1万口当たり1,481.54円）であり、うち120,923,830円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年7月10日 至平成30年8月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（73,747,925円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,165,460,823円）及び分配準備積立金（255,934,408円）より分配対象額は1,495,143,156円（1万口当たり1,320.28円）であり、うち113,244,774円（1万口当たり100円）を分配金額としております。 （自平成30年8月9日 至平成30年9月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（64,485,906円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,152,292,368円）及び分配準備積立金（212,459,773円）より分配対象額は1,429,238,047円（1万口当たり1,277.95円）であり、うち78,286,869円（1万口当たり70円）を分配金額としております。
--	---

（自平成30年3月9日 至平成30年4月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（81,530,082円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,222,749,516円）及び分配準備積立金（440,654,517円）より分配対象額は1,744,934,115円（1万口当たり1,449.40円）であり、うち120,389,707円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年4月10日 至平成30年5月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（94,111,499円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,191,297,223円）及び分配準備積立金（389,475,164円）より分配対象額は1,674,883,886円（1万口当たり1,429.75円）であり、うち117,144,831円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年9月11日 至平成30年10月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（63,924,896円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,126,913,936円）及び分配準備積立金（193,387,231円）より分配対象額は1,384,226,063円（1万口当たり1,266.45円）であり、うち76,509,541円（1万口当たり70円）を分配金額としております。

（自平成30年10月10日 至平成30年11月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（56,126,188円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,110,899,427円）及び分配準備積立金（177,548,412円）より分配対象額は1,344,574,027円（1万口当たり1,248.58円）であり、うち75,381,860円（1万口当たり70円）を分配金額としております。

	（自平成30年5月9日 至平成30年6月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（71,908,011円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,188,056,054円）及び分配準備積立金（359,492,974円）より分配対象額は1,619,457,039円（1万口当たり1,391.59円）であり、うち116,374,310円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年11月9日 至平成30年12月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（53,738,630円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（1,093,813,081円）及び分配準備積立金（153,958,434円）より分配対象額は1,301,510,145円（1万口当たり1,229.72円）であり、うち74,086,684円（1万口当たり70円）を分配金額としております。
--	--	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期
	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	581,196,438	261,428,307
親投資信託受益証券	40	40
合計	581,196,478	261,428,347

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.4664円 (4,664円)	0.4056円 (4,056円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI JAPAN STRATEGY FUND BRL CLASS	102,626,212.849	4,221,324,013	
投資信託受益証券 合計			4,221,324,013	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	398,764	399,641	
親投資信託受益証券 合計			399,641	
合計			4,221,723,654	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（ブラジル・リアル・クラス）」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース
（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成30年6月9日から平成30年12月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	66,764,705	-
コール・ローン	-	98,794,339
投資信託受益証券	4,584,132,446	3,766,171,066
親投資信託受益証券	399,840	399,641
流動資産合計	4,651,296,991	3,865,365,046
資産合計	4,651,296,991	3,865,365,046
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	26,451,208	23,750,797
未払解約金	-	48,599,270
未払受託者報酬	112,267	93,181
未払委託者報酬	5,972,877	4,957,613
その他未払費用	217,825	172,821
流動負債合計	32,754,177	77,573,682
負債合計	32,754,177	77,573,682
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 4,408,534,770	¹ 3,958,466,240
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 210,008,044	² 170,674,876
（分配準備積立金）	1,524,967,212	1,402,415,075
元本等合計	4,618,542,814	3,787,791,364
純資産合計	4,618,542,814	3,787,791,364
負債純資産合計	4,651,296,991	3,865,365,046

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期 自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
営業収益		
受取配当金	317,691,170	259,753,937
受取利息	23	34
有価証券売買等損益	447,772,214	457,715,516
営業収益合計	130,081,021	197,961,545
営業費用		
支払利息	18,027	13,620
受託者報酬	701,417	567,556
委託者報酬	37,317,587	30,196,393
その他費用	220,338	180,959
営業費用合計	38,257,369	30,958,528
営業損失（ ）	168,338,390	228,920,073
経常損失（ ）	168,338,390	228,920,073
当期純損失（ ）	168,338,390	228,920,073
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	2,402,069	6,776,977
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	594,898,593	210,008,044
剰余金増加額又は欠損金減少額	4,415,186	2,964,923
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	4,415,186	2,964,923
剰余金減少額又は欠損金増加額	50,020,302	16,434,851
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	50,020,302	16,434,851
分配金	1 173,349,112	1 145,069,896
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	210,008,044	170,674,876

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日 平成30年12月8日及びその翌日が休日のため、当特定期間末日を平成30年12月10日としております。このため、当特定期間は185日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1. 1 期首元本額	5,126,612,171円	4,408,534,770円
期中追加設定元本額	78,095,376円	156,754,541円
期中一部解約元本額	796,172,777円	606,823,071円

2.	特定期間末日における受益権の総数	4,408,534,770口	3,958,466,240口
3.	2 元本の欠損	_____	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は170,674,876円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	前 期	当 期
	自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1 分配金の計算過程	（自平成29年12月9日 至平成30年1月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（51,374,122円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（771,272,037円）及び分配準備積立金（1,617,713,324円）より分配対象額は2,440,359,483円（1万口当たり4,929.35円）であり、うち29,704,029円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年6月9日 至平成30年7月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（41,336,415円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（666,917,391円）及び分配準備積立金（1,420,894,902円）より分配対象額は2,129,148,708円（1万口当たり5,164.88円）であり、うち24,734,149円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年1月10日 至平成30年2月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（48,680,359円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（774,132,234円）及び分配準備積立金（1,628,761,707円）より分配対象額は2,451,574,300円（1万口当たり4,968.18円）であり、うち29,607,303円（1万口当たり60円）を分配金額としております。 （自平成30年2月9日 至平成30年3月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（46,876,298円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（772,656,539円）及び分配準備積立金（1,634,939,220円）より分配対象額は2,454,472,057円（1万口当たり5,003.75円）であり、うち29,431,600円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年7月10日 至平成30年8月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（42,815,575円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（658,186,684円）及び分配準備積立金（1,408,779,327円）より分配対象額は2,109,781,586円（1万口当たり5,210.64円）であり、うち24,293,934円（1万口当たり60円）を分配金額としております。 （自平成30年8月9日 至平成30年9月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（36,618,932円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（666,724,351円）及び分配準備積立金（1,408,101,047円）より分配対象額は2,111,444,330円（1万口当たり5,241.82円）であり、うち24,168,467円（1万口当たり60円）を分配金額としております。
--	---

（自平成30年3月9日 至平成30年4月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（45,182,074円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（775,763,509円）及び分配準備積立金（1,644,325,723円）より分配対象額は2,465,271,306円（1万口当たり5,036.05円）であり、うち29,371,493円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年4月10日 至平成30年5月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（58,437,678円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（764,254,973円）及び分配準備積立金（1,622,914,263円）より分配対象額は2,445,606,914円（1万口当たり5,097.94円）であり、うち28,783,479円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年9月11日 至平成30年10月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（39,942,258円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（665,870,225円）及び分配準備積立金（1,399,041,752円）より分配対象額は2,104,854,235円（1万口当たり5,282.22円）であり、うち23,908,755円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

（自平成30年10月10日 至平成30年11月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（37,950,680円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（700,366,426円）及び分配準備積立金（1,407,130,225円）より分配対象額は2,145,447,331円（1万口当たり5,316.26円）であり、うち24,213,794円（1万口当たり60円）を分配金額としております。

	（自平成30年5月9日 至平成30年6月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（38,091,557円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（707,735,942円）及び分配準備積立金（1,513,326,863円）より分配対象額は2,259,154,362円（1万口当たり5,124.50円）であり、うち26,451,208円（1万口当たり60円）を分配金額としております。	（自平成30年11月9日 至平成30年12月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（34,857,011円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（689,365,825円）及び分配準備積立金（1,391,308,861円）より分配対象額は2,115,531,697円（1万口当たり5,344.32円）であり、うち23,750,797円（1万口当たり60円）を分配金額としております。
--	--	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期
	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	18,831,864	119,813,162
親投資信託受益証券	40	40
合計	18,831,904	119,813,202

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0476円 (10,476円)	0.9569円 (9,569円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI JAPAN STRATEGY FUND USD CLASS	46,197,650.554	3,766,171,066	
投資信託受益証券 合計			3,766,171,066	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	398,764	399,641	
親投資信託受益証券 合計			399,641	
合計			3,766,570,707	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（米ドル・クラス）」
の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・
コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・
コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

【ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・
コース（毎月分配型）】

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6か月未満であるため、財務諸表は6か月毎に作成しております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当特定期間（平成30年6月9日から平成30年12月10日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

(1)【貸借対照表】

（単位：円）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	236,370,088	-
コール・ローン	-	137,149,809
投資信託受益証券	5,751,367,222	4,079,073,107
親投資信託受益証券	1,999,203	1,998,206
流動資産合計	5,989,736,513	4,218,221,122
資産合計	5,989,736,513	4,218,221,122
負債の部		
流動負債		
未払収益分配金	135,329,608	83,133,052
未払解約金	9,033,299	13,296,220
未払受託者報酬	139,068	101,544
未払委託者報酬	7,398,813	5,402,833
その他未払費用	285,900	203,682
流動負債合計	152,186,688	102,137,331
負債合計	152,186,688	102,137,331
純資産の部		
元本等		
元本	¹ 13,532,960,894	¹ 11,876,150,317
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	² 7,695,411,069	² 7,760,066,526
（分配準備積立金）	527,615,038	328,456,188
元本等合計	5,837,549,825	4,116,083,791
純資産合計	5,837,549,825	4,116,083,791
負債純資産合計	5,989,736,513	4,218,221,122

(2)【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	前 期 自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
営業収益		
受取配当金	623,498,733	508,715,722
受取利息	7	35
有価証券売買等損益	1,121,220,949	951,010,834
営業収益合計	497,722,209	442,295,077
営業費用		
支払利息	25,059	14,033
受託者報酬	935,527	668,846
委託者報酬	49,772,253	35,584,792
その他費用	288,668	215,746
営業費用合計	51,021,507	36,483,417
営業損失（ ）	548,743,716	478,778,494
経常損失（ ）	548,743,716	478,778,494
当期純損失（ ）	548,743,716	478,778,494
一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	9,256,285	7,599,389
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	6,927,828,421	7,695,411,069
剰余金増加額又は欠損金減少額	804,206,023	1,274,401,461
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	804,206,023	1,274,401,461
剰余金減少額又は欠損金増加額	193,627,558	263,524,811
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	193,627,558	263,524,811
分配金	1 838,673,682	1 604,353,002
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	7,695,411,069	7,760,066,526

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

区 分	当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。 なお、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的な事由をもって時価と認めた価額又は受託会社と協議のうえ両者が合理的な事由をもって時価と認めた価額で評価しております。 (2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、投資信託受益証券の配当落ち日において、確定配当金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日 平成30年12月8日及びその翌日が休日のため、当特定期間末日を平成30年12月10日としております。このため、当特定期間は185日となっております。

(貸借対照表に関する注記)

区 分	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1. 1 期首元本額	14,769,194,083円	13,532,960,894円
期中追加設定元本額	379,664,709円	430,079,022円
期中一部解約元本額	1,615,897,898円	2,086,889,599円

2.	特定期間末日における受益権の総数	13,532,960,894口	11,876,150,317口
3.	2 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は7,695,411,069円であります。	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は7,760,066,526円であります。

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

区 分	前 期	当 期
	自 平成29年12月9日 至 平成30年6月8日	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1 分配金の計算過程	（自平成29年12月9日 至平成30年1月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（110,138,318円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（387,069,567円）及び分配準備積立金（847,749,166円）より分配対象額は1,344,957,051円（1万口当たり931.47円）であり、うち144,391,241円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年6月9日 至平成30年7月9日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（87,986,382円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（372,837,309円）及び分配準備積立金（513,720,308円）より分配対象額は974,543,999円（1万口当たり735.69円）であり、うち132,467,511円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年1月10日 至平成30年2月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（105,549,455円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（382,172,816円）及び分配準備積立金（794,209,386円）より分配対象額は1,281,931,657円（1万口当たり906.12円）であり、うち141,475,007円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年7月10日 至平成30年8月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（85,351,460円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（367,679,392円）及び分配準備積立金（456,599,240円）より分配対象額は909,630,092円（1万口当たり701.52円）であり、うち129,665,769円（1万口当たり100円）を分配金額としております。
（自平成30年2月9日 至平成30年3月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（94,427,771円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（381,682,162円）及び分配準備積立金（748,050,279円）より分配対象額は1,224,160,212円（1万口当たり873.54円）であり、うち140,137,620円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年8月9日 至平成30年9月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（78,870,102円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（361,632,394円）及び分配準備積立金（399,434,500円）より分配対象額は839,936,996円（1万口当たり663.95円）であり、うち88,554,822円（1万口当たり70円）を分配金額としております。

（自平成30年3月9日 至平成30年4月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（85,578,824円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（382,370,637円）及び分配準備積立金（695,735,295円）より分配対象額は1,163,684,756円（1万口当たり834.95円）であり、うち139,371,807円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年4月10日 至平成30年5月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（102,362,708円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（381,489,658円）及び分配準備積立金（632,576,436円）より分配対象額は1,116,428,802円（1万口当たり809.19円）であり、うち137,968,399円（1万口当たり100円）を分配金額としております。

（自平成30年9月11日 至平成30年10月9日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（73,193,798円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（353,553,425円）及び分配準備積立金（375,892,240円）より分配対象額は802,639,463円（1万口当たり653.55円）であり、うち85,968,880円（1万口当たり70円）を分配金額としております。

（自平成30年10月10日 至平成30年11月8日）

計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（80,744,942円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（349,414,316円）及び分配準備積立金（355,584,017円）より分配対象額は785,743,275円（1万口当たり650.43円）であり、うち84,562,968円（1万口当たり70円）を分配金額としております。

	（自平成30年5月9日 至平成30年6月8日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（81,025,855円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（378,010,437円）及び分配準備積立金（581,918,791円）より分配対象額は1,040,955,083円（1万口当たり769.20円）であり、うち135,329,608円（1万口当たり100円）を分配金額としております。	（自平成30年11月9日 至平成30年12月10日） 計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額（67,233,778円）、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額（0円）、投資信託約款に規定される収益調整金（344,978,318円）及び分配準備積立金（344,355,462円）より分配対象額は756,567,558円（1万口当たり637.05円）であり、うち83,133,052円（1万口当たり70円）を分配金額としております。
--	--	---

（金融商品に関する注記）

金融商品の状況に関する事項

区 分	当 期
	自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、「投資信託及び投資法人に関する法律」第2条第4項に定める証券投資信託であり、投資信託約款に規定する「運用の基本方針」に従っております。
2. 金融商品の内容及びリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、金銭債権及び金銭債務等であり、その詳細を附属明細表に記載しております。なお、当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を通じて有価証券、デリバティブ取引に投資しております。これらの金融商品に係るリスクは、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクであります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	複数の部署と会議体が連携する組織的な体制によりリスク管理を行っております。信託財産全体としてのリスク管理を金融商品、リスクの種類毎に行っております。

4. 金融商品の時価等に関する事項 についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等に拠った場合、当該価額が異なることもあります。
--------------------------------	--

金融商品の時価等に関する事項

区 分	当 期 平成30年12月10日現在
1. 金融商品の時価及び貸借対照表 計上額との差額	金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務等 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種 類	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）	最終の計算期間の損益に 含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	266,041,356	108,332,975
親投資信託受益証券	199	199
合計	266,041,555	108,333,174

（デリバティブ取引に関する注記）

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
該当事項はありません。	該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

当 期 自 平成30年6月9日 至 平成30年12月10日
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はありません。

（1口当たり情報）

	前 期 平成30年6月8日現在	当 期 平成30年12月10日現在
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.4314円 (4,314円)	0.3466円 (3,466円)

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

種 類	銘 柄	券面総額	評価額 (円)	備考
投資信託受益証券	CROCI JAPAN STRATEGY FUND CURRENCY SELECTION CLASS	112,467,206.356	4,079,073,107	
投資信託受益証券 合計			4,079,073,107	
親投資信託受益証券	ダイワ・マネースtock・マザーファンド	1,993,820	1,998,206	
親投資信託受益証券 合計			1,998,206	
合計			4,081,071,313	

投資信託受益証券及び親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

（参考）

当ファンドは、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」受益証券（円建）を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、すべて同ファンドの受益証券であります。

また、当ファンドは、「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券であります。

なお、同ファンドの状況及び当ファンドの特定期間末日（以下、「期末日」）における同マザーファンドの状況は次のとおりであります。

「オージェンタム・トラスト - クロッキー・ジャパン・ストラテジー・ファンド（通貨セレクト・クラス）」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

「ダイワ・マネースtock・マザーファンド」の状況

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」に記載のとおりであります。

2 【ファンドの現況】

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）

【純資産額計算書】

2018年12月28日

資産総額	2,973,769,285円
負債総額	2,235,269円
純資産総額（ - ）	2,971,534,016円
発行済数量	3,992,785,220口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.7442円

(参考) ダイワ・マネースtock・マザーファンド

純資産額計算書

2018年12月28日

資産総額	48,499,950,371円
負債総額	521,225,618円
純資産総額（ - ）	47,978,724,753円
発行済数量	47,875,626,901口
1 単位当たり純資産額（ / ）	1.0022円

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 豪ドル・コース（毎月分配型）

純資産額計算書

2018年12月28日

資産総額	646,627,403円
負債総額	503,842円
純資産総額（ - ）	646,123,561円
発行済数量	1,196,799,741口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.5399円

(参考) ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）

純資産額計算書

2018年12月28日

資産総額	3,895,012,183円
負債総額	3,005,927円
純資産総額（ - ）	3,892,006,256円
発行済数量	10,541,264,099口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.3692円

（参考）ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）

純資産額計算書

2018年12月28日

資産総額	3,441,968,813円
負債総額	2,631,415円
純資産総額（ - ）	3,439,337,398円
発行済数量	3,904,001,938口
1単位当たり純資産額（ / ）	0.8810円

（参考）ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）

純資産額計算書

2018年12月28日

資産総額	3,780,679,582円
負債総額	2,882,205円
純資産総額（ - ）	3,777,797,377円
発行済数量	11,851,720,822口
1 単位当たり純資産額（ / ）	0.3188円

（参考）ダイワ・マネースtock・マザーファンド

前記「ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）」の記載と同じ。

第4 【内国投資信託受益証券事務の概要】

(1) 名義書換えの手続き等

該当事項はありません。

(2) 受益者に対する特典

ありません。

(3) 譲渡制限の内容

譲渡制限はありません。

(4) 受益証券の再発行

受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

(5) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(6) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(7) 受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社振法に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

受益権の再分割を行なうにあたり、各受益者が保有する受益権口数に1口未満の端数が生じることとなる場合には、当該端数を切り捨てるものとし、当該端数処理は口座管理機関ごとに行ないます。また、各受益者が保有することとなる受益権口数の合計数と、受益権の再分割の比率に基づき委託会社が計算する受益権口数の合計数との間に差が生じることとなる場合には、委託会社が計算する受益権口数を当該差分減らし、当該口数にかかる金額については益金として計上することとします。

(8) 償還金

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された

受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、ます。) に支払います。

(9) 質権口記載または記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取扱われます。

第二部 【委託会社等の情報】

第1 【委託会社等の概況】

1 【委託会社等の概況】

a. 資本金の額

2018年12月末日現在

資本金の額 151億7,427万2,500円

発行可能株式総数 799万9,980株

発行済株式総数 260万8,525株

過去5年間ににおける資本金の額の増減：該当事項はありません。

b. 委託会社の機構

会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。取締役は、株主総会において選任され、その任期は選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでです。

取締役会は、4名以内の代表取締役を選定し、代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役、役付執行役員等から構成される経営会議は、経営全般にかかる基本的事項を審議し、決定します。経営会議は、分科会を設置し、専門的な事項についてはその権限を委ねることができます。

投資運用の意思決定機構

投資運用の意思決定機構の概要は、以下のとおりとなっています。

イ. ファンド個別会議

ファンド運営上の諸方針を記載した基本計画書を経営会議の分科会であるファンド個別会議において審議・決定します。

ロ. 投資環境検討会

運用最高責任者であるCIO（Chief Investment Officer）が議長となり、原則として月1回投資環境検討会を開催し、投資環境について検討します。

ハ. 運用会議

CIOが議長となり、原則として月1回運用会議を開催し、基本的な運用方針を決定します。

ニ. 運用部長・ファンドマネージャー

ファンドマネージャーは、基本計画書に定められた各ファンドの諸方針と運用会議で決定された基本的な運用方針にしたがって運用計画書を作成します。運用部長は、ファンドマネージャーから提示を受けた運用計画書について、基本計画書および運用会議の決定事項との整合性等を確認し、承認します。

ホ. ファンド評価会議、運用審査会議、リスクマネジメント会議および執行役員会議

・ファンド評価会議

運用実績・運用リスクの状況について、分析・検討を行ない、運用部にフィードバックします。

・運用審査会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用実績の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・リスクマネジメント会議

経営会議の分科会として、ファンドの運用リスクの状況・運用リスク管理等の状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

・執行役員会議

経営会議の分科会として、法令等の遵守状況についての報告を行ない、必要事項を審議・決定します。

2 【事業の内容及び営業の概況】

委託会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行なうとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行なっています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行なっています。

2018年12月末日現在、委託会社が運用を行なっている投資信託（親投資信託を除きます。）は次のとおりです。

基本的性格	本数（本）	純資産額の合計額（百万円）
単位型株式投資信託	80	164,607
追加型株式投資信託	718	14,301,647
株式投資信託 合計	798	14,466,254
単位型公社債投資信託	30	114,477
追加型公社債投資信託	14	1,406,818
公社債投資信託 合計	44	1,521,295
総合計	842	15,987,549

3 【委託会社等の経理状況】

1．当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

また、当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号。以下「中間財務諸表等規則」という。）並びに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

2．当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第59期事業年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の財務諸表についての監査を、有限責任 あずさ監査法人により受けております。

また、第60期事業年度に係る中間会計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の中間財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により中間監査を受けております。

3．財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(1) 【貸借対照表】

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金・預金	31,260	28,709
有価証券	110	0
前払費用	190	201
未収委託者報酬	10,453	12,368
未収収益	72	82
繰延税金資産	439	552
その他	34	47
流動資産計	42,560	41,962
固定資産		
有形固定資産	1 229	1 213
建物	15	12
器具備品	214	200
無形固定資産	2,650	2,614
ソフトウェア	2,323	2,456
ソフトウェア仮勘定	327	158
投資その他の資産	12,353	15,066

投資有価証券	5,920	8,600
関係会社株式	5,129	5,129
出資金	185	183
長期差入保証金	1,050	1,072
繰延税金資産	31	45
その他	37	34
固定資産計	15,234	17,894
資産合計	57,795	59,856

（単位:百万円）

	前事業年度 （平成29年 3月31日）	当事業年度 （平成30年 3月31日）
負債の部		
流動負債		
預り金	79	65
未払金	9,466	9,747
未払収益分配金	7	8
未払償還金	59	59
未払手数料	4,453	5,202
その他未払金	2 4,946	2 4,476
未払費用	4,077	4,148
未払法人税等	980	850
未払消費税等	223	583
賞与引当金	945	1,012
その他	3	335
流動負債計	15,776	16,744
固定負債		
退職給付引当金	2,318	2,350
役員退職慰労引当金	151	125
その他	7	5
固定負債計	2,477	2,481
負債合計	18,254	19,225
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,174	15,174
資本剰余金		
資本準備金	11,495	11,495

資本剰余金合計	11,495	11,495
利益剰余金		
利益準備金	374	374
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	12,231	13,370
利益剰余金合計	12,606	13,744
株主資本合計	39,276	40,414
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	264	216
評価・換算差額等合計	264	216
純資産合計	39,540	40,631
負債・純資産合計	57,795	59,856

(2) 【損益計算書】

(単位:百万円)

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	79,747	82,510
その他営業収益	727	733
営業収益計	80,474	83,244
営業費用		
支払手数料	40,110	40,392
広告宣伝費	549	673
調査費	9,436	9,816
調査費	904	955
委託調査費	8,531	8,860
委託計算費	793	839
営業雑経費	1,375	1,579
通信費	251	249
印刷費	501	500
協会費	50	53
諸会費	13	13
その他営業雑経費	557	762
営業費用計	52,265	53,300
一般管理費		
給料	5,833	5,840
役員報酬	416	377
給料・手当	3,940	3,973

賞与	531	477
賞与引当金繰入額	945	1,012
福利厚生費	807	788
交際費	60	55
旅費交通費	178	195
租税公課	531	501
不動産賃借料	1,273	1,281
退職給付費用	463	316
役員退職慰労引当金繰入額	60	46
固定資産減価償却費	1,045	977
諸経費	1,400	1,528
一般管理費計	11,655	11,531
営業利益	16,554	18,411

（単位:百万円）

	前事業年度 （自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31 日）	当事業年度 （自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）
営業外収益		
受取配当金	92	75
投資有価証券売却益	224	210
有価証券償還益	94	17
その他	69	55
営業外収益計	481	359
営業外費用		
投資有価証券売却損	24	0
その他	75	29
営業外費用計	100	29
経常利益	16,935	18,741
特別損失		
MMF等償還関連費用	305	-
関係会社整理損失	-	333
特別損失計	305	333
税引前当期純利益	16,629	18,407
法人税、住民税及び事業税	6,501	5,843
法人税等調整額	1,405	106
法人税等合計	5,096	5,737
当期純利益	11,533	12,670

(3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	13,960	14,334	41,004
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	13,261	13,261	13,261
当期純利益	-	-	-	11,533	11,533	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	1,728	1,728	1,728
当期末残高	15,174	11,495	374	12,231	12,606	39,276

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	280	280	41,284
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	13,261
当期純利益	-	-	11,533
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	15	15	15
当期変動額合計	15	15	1,743
当期末残高	264	264	39,540

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

（単位：百万円）

有価証券報告書（内国投資信託）

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	12,231	12,606	39,276
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	11,532	11,532	11,532
当期純利益	-	-	-	12,670	12,670	12,670
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	1,138	1,138	1,138
当期末残高	15,174	11,495	374	13,370	13,744	40,414

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価 証券評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	264	264	39,540
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	11,532
当期純利益	-	-	12,670
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	47	47	47
当期変動額合計	47	47	1,090
当期末残高	216	216	40,631

注記事項

（重要な会計方針）

１．有価証券の評価基準及び評価方法

（１）子会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

（２）その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

（2）無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年間）に基づく定額法によっております。

3．引当金の計上基準

（1）賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

（2）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて各事業年度毎に各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

（3）役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4．消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

5．連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

（表示方法の変更）

（損益計算書）

前事業年度において、「営業外収益」に独立掲記しておりました「受取利息」は、金額的重要性が乏しいため、当事業年度より「営業外収益」の「その他」としております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の財務諸表において、「営業外収益」に表示していた「受取利息」12百万円、「その他」56百万円は、「その他」69百万円として組替えております。

（貸借対照表関係）

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
建物	26百万円	29百万円
器具備品	264百万円	235百万円

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
未払金	4,877百万円	4,406百万円

3 保証債務

前事業年度（平成29年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,685百万円に対して保証を行っております。

当事業年度（平成30年3月31日）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,701百万円に対して保証を行っております。

（株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合 計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の 総額（百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	13,261	5,084	平成28年 3月31日	平成28年 6月24日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成29年6月26日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	11,532百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,421円
基準日	平成29年3月31日
効力発生日	平成29年6月27日

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合 計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

（1）配当金支払額

決議	株式の種類	剰余金の配当の 総額（百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成29年6月26日 定時株主総会	普通株式	11,532	4,421	平成29年 3月31日	平成29年 6月27日

（2）基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成30年6月25日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

剰余金の配当の総額	12,669百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	4,857円
基準日	平成30年3月31日
効力発生日	平成30年6月26日

（金融商品関係）

1．金融商品の状況に関する事項

（1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

（2）金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設

けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されており、株式は上場株式、非上場株式並びに子会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式及び子会社株式は発行体の信用リスクに晒されており、

未払手数料は証券投資信託の販売に係る代行手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

（３）金融商品に係るリスク管理体制

市場リスクの管理

（ ）為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

（ ）価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

２．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注２）参照のこと）。

前事業年度（平成29年３月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額(*1)	時価(*1)	差額
（１）現金・預金	31,260	31,260	-
（２）未収委託者報酬	10,453	10,453	-
（３）有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	5,060	5,060	-
資産計	46,774	46,774	-
（１）未払手数料	(4,453)	(4,453)	-
（２）その他未払金	(4,946)	(4,946)	-
（３）未払費用(*2)	(3,409)	(3,409)	-
負債計	(12,809)	(12,809)	-

(*1) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(*2) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

当事業年度（平成30年３月31日）

（単位：百万円）

	貸借対照表 計上額(*1)	時価(*1)	差額
(1) 現金・預金	28,709	28,709	-
(2) 未収委託者報酬	12,368	12,368	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 其他有価証券	7,631	7,631	-
資産計	48,709	48,709	-
(1) 未払手数料	(5,202)	(5,202)	-
(2) その他未払金	(4,476)	(4,476)	-
(3) 未払費用(*2)	(3,286)	(3,286)	-
負債計	(12,965)	(12,965)	-

(*1) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(*2) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

資 産

(1) 現金・預金、並びに(2) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、証券投資信託については、基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

負 債

(1) 未払手数料、(2) その他未払金、並びに(3) 未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	前事業年度 (平成29年3月31日)	当事業年度 (平成30年3月31日)
(1) 其他有価証券 非上場株式	970	970
(2) 子会社株式及び関連会社株式 非上場株式	5,129	5,129
(3) 長期差入保証金	1,050	1,072

これらは、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成29年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	31,260	-	-	-
未収委託者報酬	10,453	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 其他有価証券のうち満期があるもの	110	2,876	1,139	110
合計	41,824	2,876	1,139	110

当事業年度（平成30年3月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金・預金	28,709	-	-	-
未収委託者報酬	12,368	-	-	-
有価証券及び投資有価証券 其他有価証券のうち満期があるもの	0	5,302	1,801	117
合計	41,078	5,302	1,801	117

（有価証券関係）

1．子会社株式及び関連会社株式

前事業年度（平成29年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度（平成30年3月31日）

子会社株式（貸借対照表計上額 5,129百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2．其他有価証券

前事業年度（平成29年3月31日）

	貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（1）株式	122	55	67
（2）その他 証券投資信託	3,107	2,697	410
小計	3,230	2,752	478
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他 証券投資信託	1,829	1,926	96

小計	1,829	1,926	96
合計	5,060	4,679	381

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 970百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度（平成30年3月31日）

	貸借対照表計上額 （百万円）	取得原価 （百万円）	差額 （百万円）
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（１）株式	134	55	79
（２）その他 証券投資信託	4,196	3,740	456
小計	4,331	3,795	535
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
その他 証券投資信託	3,299	3,522	223
小計	3,299	3,522	223
合計	7,631	7,318	312

（注）非上場株式（貸借対照表計上額 970百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

３．売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
（１）株式	50	-	1
（２）その他 証券投資信託	4,371	224	23
合計	4,421	224	24

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	売却額 （百万円）	売却益の合計額 （百万円）	売却損の合計額 （百万円）
（１）株式	-	-	-
（２）その他 証券投資信託	1,963	210	0
合計	1,963	210	0

４．減損処理を行った有価証券

前事業年度において、該当事項はありません。

当事業年度において、該当事項はありません。

（退職給付関係）

１．採用している退職給付制度の概要

当社は、非積立型の確定給付制度（退職一時金制度であります）及び確定拠出制度を採用しております。

２．確定給付制度

（１）退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
退職給付債務の期首 残高	2,209百万円	2,318百万円
勤務費用	202	159
退職給付の支払額	122	166
その他	29	38
退職給付債務の期末 残高	2,318	2,350

（２）退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

	前事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,318百万円	2,350百万円
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	2,318	2,350
退職給付引当金	2,318	2,350
貸借対照表に計上された負債と 資産の純額	2,318	2,350

（３）退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前事業年度 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成29年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成30年 3 月31日)
勤務費用	202百万円	159百万円

その他	87	24
確定給付制度に係る退職給付費用	289	184

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度173百万円、当事業年度171百万円であります。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

（単位：百万円）

	前事業年度 （平成29年3月31日）	当事業年度 （平成30年3月31日）
繰延税金資産		
退職給付引当金		719
	709	
賞与引当金	224	244
未払事業税	169	162
出資金評価損	98	94
投資有価証券評価損	65	68
連結法人間取引（譲渡損）	5	5
その他	185	308
繰延税金資産小計	1,458	1,602
評価性引当額	201	200
繰延税金資産合計	1,257	1,402
繰延税金負債		
連結法人間取引（譲渡益）	639	639
その他有価証券評価差額金	146	164
繰延税金負債合計	786	804
繰延税金資産の純額	470	598

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度（平成29年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

当事業年度（平成30年3月31日）

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

〔関連情報〕

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

内国籍証券投資信託又は本邦顧客からの営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の子会社

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証(注)	1,685	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁（MAS）に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	(所有) 直接100.0	経営管理	債務保証(注)	1,701	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁（MAS）に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行等に関するMASへの損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定められております。

（イ）財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社

前事業年度（自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料(注2)	23,238	未払手数料	3,298
同一の親会社をもつ会社	(株)大和総研ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	768	未払費用	218
同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ(株)	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,036	長期差入保証金	1,028

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

当事業年度（自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円)
同一の親会社をもつ会社	大和証券㈱	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料(注2)	23,216	未払手数料	3,913
同一の親会社をもつ会社	㈱大和総研 ビジネス・イノベーション	東京都江東区	3,000	情報サービス業	-	ソフトウェアの開発	ソフトウェアの購入(注3)	1,020	未払費用	233
同一の親会社をもつ会社	大和プロパティ㈱	東京都中央区	100	不動産管理業	-	本社ビルの管理	不動産の賃借料(注4)	1,048	長期差入保証金	1,055

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) ソフトウェアの購入については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

(注4) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

2. 親会社に関する注記

株式会社大和証券グループ本社（東京証券取引所、名古屋証券取引所に上場）

（1株当たり情報）

前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)		当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	
1株当たり純資産額	15,158.25円	1株当たり純資産額	15,576.40円
1株当たり当期純利益	4,421.51円	1株当たり当期純利益	4,857.40円

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	当事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
当期純利益(百万円)	11,533	12,670
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525	2,608,525

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

中間財務諸表
(1) 中間貸借対照表

(単位:百万円)

当中間会計期間 (2018年9月30日)		
資産の部		
流動資産		
現金・預金		21,097
有価証券		0
未収委託者報酬		12,445
その他		2,329
流動資産合計		35,872
固定資産		
有形固定資産	1	199
無形固定資産		
ソフトウェア		2,162
その他		449
無形固定資産合計		2,612
投資その他の資産		
投資有価証券		7,521
関係会社株式		1,836
繰延税金資産		964
その他		1,286
投資その他の資産合計		11,608
固定資産合計		14,420
資産合計		50,293

(単位:百万円)

当中間会計期間 (2018年9月30日)		
負債の部		
流動負債		
未払金		7,165

未払費用	3,666
未払法人税等	859
賞与引当金	611
その他	2 552
流動負債合計	12,855
固定負債	
退職給付引当金	2,335
役員退職慰労引当金	144
その他	3
固定負債合計	2,483
負債合計	15,338
純資産の部	
株主資本	
資本金	15,174
資本剰余金	
資本準備金	11,495
資本剰余金合計	11,495
利益剰余金	
利益準備金	374
その他利益剰余金	
繰越利益剰余金	7,643
利益剰余金合計	8,017
株主資本合計	34,687
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	267
評価・換算差額等合計	267
純資産合計	34,955
負債・純資産合計	50,293

(2) 中間損益計算書

(単位:百万円)

当中間会計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	39,713
その他営業収益	351
営業収益合計	40,065
営業費用	
支払手数料	18,868
その他営業費用	6,357

営業費用合計		25,226
一般管理費	1	5,925
営業利益		8,913
営業外収益	2	418
営業外費用	3	86
経常利益		9,244
特別利益		-
特別損失	4	29
税引前中間純利益		9,215
法人税、住民税及び事業税		2,628
法人税等調整額		125
中間純利益		6,462

(3) 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	利益準備金	その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
				繰越利益 剰余金		
当期首残高	15,174	11,495	374	13,370	13,744	40,414
会計方針の変更による累積的影響額				480	480	480
会計方針の変更を反映した当期首残高	15,174	11,495	374	13,850	14,225	40,895
当中間期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	12,669	12,669	12,669
中間純利益	-	-	-	6,462	6,462	6,462
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	6,207	6,207	6,207
当中間期末残高	15,174	11,495	374	7,643	8,017	34,687

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	216	216	40,631
会計方針の変更による累積的影響額			480
会計方針の変更を反映した当期首残高			41,112
当中間期変動額			
剰余金の配当	-	-	12,669
中間純利益	-	-	6,462
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	50	50	50
当中間期変動額合計	50	50	6,156
当中間期末残高	267	267	34,955

注記事項

（重要な会計方針）

１．有価証券の評価基準及び評価方法

（１）子会社

移動平均法による原価法により計上しております。

（２）その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

２．固定資産の減価償却の方法

（１）有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10～18年
器具備品	4～20年

（２）無形固定資産

定額法によっております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（５年間）に基づく定額法によっております。

３．引当金の計上基準

（１）賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

（２）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与についても、当社の退職金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

（３）役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当中間会計期間末要支給額を計上しております。

４．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

（１）消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

（２）連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

（会計方針の変更）

（税効果会計に係る会計基準の適用指針の適用）

「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 平成30年２月16日）を当中間会計期間の期首から適用しており、子会社株式等に対する投資に係る将来加算一時差異に基づく繰延税金負債を過年度に遡及して取り崩した結果、貸借対照表の繰延税金負債が480百万円減少し、株主資本等変動計算書の繰越利益剰余金の遡及適用後の期首残高が480百万円増加しております。

（表示方法の変更）

（『税効果会計に係る会計基準』の一部改正の適用）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年２月16日）等を当中間会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

（中間貸借対照表関係）

１ 減価償却累計額

当中間会計期間

（2018年9月30日現在）

有形固定資産	280百万円
--------	--------

2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、金額的重要性が乏しいため、流動負債の「その他」に含めて表示しております。

3 保証債務

当中間会計期間（2018年9月30日現在）

子会社であるDaiwa Asset Management(Singapore)Ltd.の債務1,743百万円に対して保証を行っております。

（中間損益計算書関係）

1 減価償却実施額

	当中間会計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）
有形固定資産	16百万円
無形固定資産	436百万円

2 営業外収益の主要項目

	当中間会計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）
有価証券償還益	132百万円
投資有価証券売却益	124百万円
為替差益	104百万円

3 営業外費用の主要項目

	当中間会計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）
有価証券償還損	32百万円
投資有価証券売却損	24百万円
固定資産除却損	13百万円

4 特別損失の主要項目

当中間会計期間

（自 2018年 4 月 1 日

至 2018年 9 月30日）

関係会社整理損失

29百万円

（中間株主資本等変動計算書関係）

当中間会計期間（自 2018年 4 月 1 日 至 2018年 9 月30日）

1．発行済株式の種類及び総数に関する事項

（単位：千株）

	当事業年度期首 株式数	当中間会計期間 増加株式数	当中間会計期間 減少株式数	当中間会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	2,608	-	-	2,608
合計	2,608	-	-	2,608

2．配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2018年 6 月25日 定時株主総会	普通株式	12,669	4,857	2018年 3 月31日	2018年 6 月26日

（金融商品関係）

当中間会計期間（2018年 9 月30日）

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照のこと）。

（単位：百万円）

	中間貸借対照表計上額(*1)	時価(*1)	差額
(1) 現金・預金	21,097	21,097	-
(2) 未収委託者報酬	12,445	12,445	-
(3) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	6,551	6,551	-
資産合計	40,094	40,094	-
(1) 未払金	(7,096)	(7,096)	-
(2) 未払費用(*2)	(3,089)	(3,089)	-
負債合計	(10,186)	(10,186)	-

(*1) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

(*2) 未払費用のうち金融商品で時価開示の対象となるものを表示しております。

（注１）金融商品の時価の算定方法

資 産

（１）現金・預金及び（２）未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（３）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、証券投資信託については、基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

負 債

（１）未払金及び（２）未払費用

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（注２）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	当中間会計期間
非上場株式	970
子会社株式	1,836
差入保証金	1,071

これらは、市場価格がなく、かつ将来キャッシュフローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象としておりません。

（有価証券関係）

当中間会計期間（2018年9月30日）

１．子会社株式及び関連会社株式

子会社株式（中間貸借対照表計上額 1,836百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

２．その他有価証券

	中間貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
（１）株式	129	55	74
（２）その他			

証券投資信託	4,148	3,765	383
小計	4,277	3,820	457
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの その他			
証券投資信託	2,274	2,378	104
小計	2,274	2,378	104
合計	6,551	6,198	352

（注）非上場株式（中間貸借対照表計上額 970百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

（セグメント情報等）

〔セグメント情報〕

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

当社は、資産運用に関する事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

〔関連情報〕

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. サービスごとの情報

単一のサービス区分の営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

（1）営業収益

内国籍投資信託又は本邦顧客からの営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

（2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

〔報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報〕

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報〕

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

該当事項はありません。

〔報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報〕

当中間会計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

当中間会計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	
1株当たり純資産額	13,400.41円
1株当たり中間純利益	2,477.30円

（注1）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注2）1株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下の通りであります。

当中間会計期間 （自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）	
中間純利益(百万円)	6,462
普通株式に係る中間純利益(百万円)	6,462
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-
普通株式の期中平均株式数(株)	2,608,525

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

4 【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等（委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。）又は子法人等（委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。）と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行なうこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行なう投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行なうことを内容とした運用を行なうこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

5 【その他】

a. 定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項

提出日前1年以内において、定款の変更、事業譲渡または事業譲受、出資の状況その他の重要事項に該当する事実はありません。

b. 訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実

訴訟事件その他委託会社に重要な影響を及ぼすことが予想される事実はありません。

第2 【その他の関係法人の概況】

1 【名称、資本金の額及び事業の内容】

(1) 受託会社

名称 株式会社りそな銀行

資本金の額 279,928百万円（2018年3月末日現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称 大和証券株式会社

資本金の額 100,000百万円（2018年3月末日現在）

事業の内容

金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

2 【関係業務の概要】

受託会社は、信託契約の受託者であり、委託会社の指図に基づく信託財産の管理・処分、信託財産の計算等を行ないます。なお、外国における資産の保管は、その業務を行なうに十分な能力を有すると認められる外国の金融機関が行なう場合があります。

販売会社は、受益権の募集の取扱い、信託契約の一部解約に関する事務、収益分配金・償還金・一部解約金の支払いに関する事務等を行ないます。

3 【資本関係】

該当事項はありません。

< 再信託受託会社の概要 >

名称：日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社

資本金の額：51,000百万円（2018年3月末日現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

第3 【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が関東財務局長に提出されております。

（提出年月日）	（書類名）
2018年6月18日	臨時報告書
2018年8月31日	有価証券届出書、有価証券報告書
2018年9月20日	臨時報告書

独立監査人の監査報告書

平成30年 5月25日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	高波 博之	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	貞廣 篤典	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	内田 和男	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和証券投資信託委託株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第59期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、大和証券投資信託委託株式会社の平成30年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年1月18日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 深井 康治 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）の平成30年6月9日から平成30年12月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 日本円・コース（毎月分配型）の平成30年12月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) ２． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年1月18日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 深井 康治 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）- ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース（毎月分配型）の平成30年6月9日から平成30年12月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型）- ジャパン・トリプルリターンズ- 豪ドル・コース（毎月分配型）の平成30年12月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) ２． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年1月18日

大和証券投資信託委託株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	深井 康治 印
--------------------	-------	---------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小林 英之 印
--------------------	-------	---------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）の平成30年6月9日から平成30年12月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - ブラジル・リアル・コース（毎月分配型）の平成30年12月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) ２． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年1月18日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 深井 康治 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）の平成30年6月9日から平成30年12月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 米ドル・コース（毎月分配型）の平成30年12月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) ２． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年1月18日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 深井 康治 印
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 小林 英之 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）の平成30年6月9日から平成30年12月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ダイワ日本株ストラテジーα（通貨選択型） - ジャパン・トリプルリターンズ - 通貨セレクト・コース（毎月分配型）の平成30年12月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

大和証券投資信託委託株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １． 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) ２． XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の中間監査報告書

2018年11月22日

大和証券投資信託委託株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小倉 加奈子 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	間瀬 友未 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	深井 康治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている大和証券投資信託委託株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第60期事業年度の中間会計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、大和証券投資信託委託株式会社の2018年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注) 2. XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。